

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実

今後の取組 (1) 相談窓口・相談体制の充実

① 行政

- ▶ 総合的な相談窓口のあり方を検討し、総合窓口の設置を目指します。
- ▶ 公設公民館を活用した、相談窓口の設置を検討します。
- ▶ 相談体制を総合的に検討・調整する会議の設置を検討します。
- ▶ わかりやすい相談窓口の設置と、周知に努めます。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆新庁舎建設後における相談窓口の場所 ◆総合窓口の設置を含めた組織機構の見直し	◆実績なし	◆新庁舎建設基本設計、実施設計は未実施のため、総合窓口、相談窓口の検討を行っていない。	◆組織機構の見直しに併せ、総合窓口の設置を含めた検討を行う。	D	◆未実施のため	縮減
総務部	◆窓口サービス向上委員会（連絡会、ワーキンググループ）の開催	◆開催なし	◆前年度実施したアンケートの結果から職員の窓口対応等ソフト面については一定の評価を得られた一方、庁舎の設備的なハード面に関する要望への対応、サービスの向上が課題である。	◆現状下での更なるサービス向上策の検討 ◆新庁舎整備計画との連動	D	◆実績なし	改善

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆公設公民館を利用した、相談窓口を設置し、周知する。</p> <p>◆わかりやすい相談窓口を設置し、周知する。</p> <p>◆市内8か所に設置した地域包括支援センターにより、高齢者の多様な相談に応じ、相談内容により、関係機関と連携する。</p> <p>◆総合的な相談窓口のあり方を検討し、総合窓口の設置を目指す。</p>	<p>◆前年に引き続き、市広報誌に相談日等を定期的に掲載した。</p> <p>◆高齢者の総合相談窓口として市内8か所の地域包括支援センターについて、リーフレット等により周知した。</p> <p>◆相談の内容に応じた相談窓口の設置(健康相談、食生活相談、電話相談)。</p> <p>◆公設公民館に相談会場を設置し、周知した。</p> <p>◆集団検診会場に相談日を掲示した。</p> <p>◆集団検診受診者には、個別に相談日を通知した。</p> <p>◆健康相談会 H29…72回、1,098人内自発141人 H30…75回、690人内自発149人 R1…62回、671人内自発121人</p> <p>◆食生活相談 H29…72回、99人 H30…75回、76人 R1…65回、53人</p> <p>相談会場 H29…2保健センター、7公設公民館 H30…同数 R1…同数</p>	<p>◆総合的な相談窓口の検討について、新庁舎建設に伴う組織の見直し後でないと、見直しの着手できない。</p> <p>◆高齢者の総合相談窓口として、高齢者の生活全般の悩み、相談に対して支援することができた。</p> <p>◆相談内容に応じた窓口を設置していることにより、きめ細かな対応ができた。</p> <p>◆健診の結果や健康相談等に対応できた。</p>	<p>◆新庁舎建設のスケジュールと並行して、本市に適した総合的な相談窓口を検討していく。</p> <p>◆地域包括支援センターの周知を継続する。</p> <p>◆各種相談に応じた窓口を設置していることの周知を引き続き行い、住民が必要時に活用できる体制整備を行う。</p>	B	<p>◆総合的な相談窓口の設置の検討について、今後も継続していく必要があるため。</p> <p>◆地域包括支援センターによる相談支援が行われているため。</p> <p>◆各種相談の周知はされており、対応はできているが、引き続き、周知や体制整備は必要なため。</p>	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆わかりやすい相談窓口の設置と周知。	◆市広報等への掲載やイベント等でのチラシの配布により、相談窓口の周知を行った。 ◆関係機関の実務担当者から意見を聴取しながら、発達支援に関連する相談先を分かりやすく紹介するために「相談窓口ガイド」を作成し、窓口等に設置した。 印刷部数：約5,000部 主な配布先：乳幼児健診、就学時健診、窓口 ◆地域共生社会実現に向けて庁内会議を開催し、複合的な福祉課題について協議を行った。	◆実務担当者が構成する庁内会議、庁外関係者の会議等の開催により、部門横断的な情報共有が図られた。 ◆「相談窓口ガイド」を作成し、相談窓口の周知を図った。	◆相談内容に関連する諸制度や相談ニーズに対応するために、相談員等の知識、スキルの向上に努める。	B	◆総合的な窓口の設置には至っていないものの、部門横断的な連携、情報共有を図る状況が多くみられたため。	継続
教育部	◆相談窓口の設置相談を受け、会場を提供する。	◆社会福祉協議会が行う地域住民助け合い事業の地区拠点として、公民館事務室を提供。	◆公民館としての主体的な活動ではないため、自主事業、貸館事業との調整が必要。	◆事業実施に際し、関係課との綿密な連絡調整が必要。	B	◆主体的な活動は行っていない。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だよりやホームページなどを通して市民に各種相談窓口の情報を周知します。
- ▶ 行政、専門機関、地域住民などと連携を図り、相談支援のネットワークを強化します。
- ▶ 窓口に必要な資格を持った職員を配置し、また、研修などを通して職員一人ひとりのスキルアップを図り、質の高い相談支援体制づくりに努めます。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政、専門機関、地域住民などとのネットワークを強化する。 ◆地域からの相談に対し、適切な対応が出来るようスキルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆スキルアップのため各種研修への参加 ◆地域からの相談に対し、行政、専門機関、地域住民と連携し対応 ◆地域ケア会議や地域の集まり等に参加し、行政、専門機関、地域住民とのネットワークを強化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆相談や会議を通じて、行政、専門機関、地域住民と連携し、ネットワークづくりを強化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域支援員、地域支援員推進員の知識・情報の共有を図り、質の高い相談体制をつくる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ネットワークづくり・スキルアップを強化できた。 	継続
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> ◆偶数月（年6回）に社協だよりを発行する。 ◆社協からの最新の情報をHPに掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりやHPを利用し、各種相談窓口の情報を周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりやHPを利用し、各種相談窓口の情報を周知することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆HPについては、リアルタイムになるよう掲載していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協からの情報発信は行うことができています。 	継続
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆広報誌やパンフレットを通して、制度の周知を行う。 ◆関係機関との連絡を密に行う。 ◆国・県が主催する研修会に参加し、職員のスキルアップと情報収集を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりやホームページ、市の広報誌などで各種相談窓口の情報を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本会で行う相談については、周知することができた。関係機関とも連携することができているが、地域との連携は十分ではないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政とも協議を進め、相談体制の在り方について検討していくことも必要ではないかと考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆相談窓口の周知、関係機関との連携は進んでいる。 	継続
福祉サービス支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆居宅介護支援及び特定相談支援に関わる職員の配置により、関係機関を中心として地域に向けてネットワークを形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ケア会議への参加、事例提供を行うことができ、その中で、関係機関等との関係を継続することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日々の業務での関係機関との関わり、研修などを通じて、相談支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆引き続き、それぞれ職員のスキルアップを図り、質の高い相談体制を作る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆相談支援のネットワーク化ができ、以前と比較して実際の支援へ活用できはじめたため。 	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	◆ボランティアセンター本所、ボランティアセンター黒磯とともに『地域に開かれた存在』としてコーディネートを行う。	◆ボランティアセンター本所・ボランティアセンター黒磯とともに『地域に開かれた存在』としてボランティアの窓口として定着してきた。 ボランティア相談者数 H30年度1月末… 2,510件 R01年度1月末… 4,013件 ◆ボランティアセンターの専任職員3名（本所2名、黒磯1名）全員がコーディネートの資格を所有し、研修や会議等に参加しコーディネートのスキルアップに努めた。	◆ボランティアセンター2ヶ所（本所・黒磯）や、専任職員も3名体制（本所2名、黒磯1名）が定着して、多くの市民やボランティアの窓口となっている。	◆多くのボランティアや関係機関等と協力し、さまざまな地域課題の解決ができるように、より一層コーディネート業務のスキルアップに努める。	B	◆ボランティアセンター本所・黒磯とともに多くの市民やボランティアの窓口となってきている。	拡充

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中で困っている人がいたときには、各種相談窓口にご相談するよう勧めます。
- ▶ 市や社協の広報紙やホームページなどで相談窓口を確認します。
- ▶ 地域包括支援センターなどの専門機関や民生委員・児童委員の業務を理解し、連絡先を地域で共有します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆市、社協広報紙及びホームページにより相談窓口を確認し、相談先の紹介や相談を受けた ◆地域内で困っている人の相談を民生委員児童委員を通して地域包括支援センターや社会福祉協議会に相談するよう努めた。
総務・経理係	◆相談窓口を知るために、社協だよりや社協HPから情報を得ている。
生活支援係	◆民生委員に地域の困っている人を情報提供した。

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実

今後の取組 (2) 福祉に関する情報提供の充実

① 行政

- ▶ 福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、情報提供を行います。
- ▶ 個人情報の保護に配慮しつつ、地域と連携する仕組みを検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、情報提供を行う。</p> <p>◆災害発生時に備え、個人情報の保護に配慮しつつ、避難行動要支援者支援制度を推進し、平常時から地域の連携を強化する仕組みづくりに努める。</p> <p>◆地域住民助け合い事業（15公民館）</p> <p>◆地域支え合い推進員の配置（15公民館）</p>	<p>◆自治会、自主防災組織、民生委員に対し、15公民館で避難行動要支援者支援制度の説明会を行い、周知啓発を図った。</p> <p>◆避難行動要支援者に対して個人情報提供に係る同意確認を行った。</p> <p>◆避難支援等関係者に対する同意者名簿の提供について、個人情報の取扱いに関する協定を締結した上で、自治会に対して同意者名簿を提供し、個別計画の作成を依頼した。</p> <p>◆地域支え合い推進員を15公立公民館に配置した。</p> <p>H29…10公民館 H30…14公民館</p> <p>◆見守り活動等を79自治会が実施した。</p> <p>H29…55自治会 H30…71自治会</p>	<p>◆避難行動要支援者支援制度について、市と協定した自治会が80%となり、また個別計画の作成率が59.1%となった。</p> <p>◆地域包括支援センターや地域支え合い推進員が、地域住民を交えた会議や活動を通じ、地域の住民や事業所等と連携できる体制を拡充することができた。</p>	<p>◆避難行動要支援者支援制度について、未協定自治会に対して粘り強く制度の趣旨を周知していき、協定数を増やしていく。</p> <p>◆見守り活動等に取り組めていない自治会があるため、引き続き、自治会に出向き、取組への参加を粘り強く呼びかける。</p>	B	<p>◆避難行動要支援者支援制度について、個別計画の作成数や協定自治会数が増えた。</p> <p>◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで連携できる体制を拡充することができたため。</p>	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆NPO法人と連携し、子育てに関する情報を提供する。	◆商業施設内に子育てコミュニティ広場を開設し、子育て支援情報を広く発信した。 ◆子育て家庭が気軽に遊べる屋内、屋外の施設をまとめた「親子のおでかけマップ」を作成した。 ◆子育てコンシェルジュが子育てサロンや乳幼児健診会場を訪問し、情報提供を行った。	◆子育てコミュニティ広場の利用者が予想以上に多く、各地域に同様の施設を設置を要望する声がある。	◆適時適切な情報が提供できるよう、情報発信の方法を工夫する。	B	◆子育てコミュニティ広場の開設や子育てサロンや乳幼児健診での子育てコンシェルジュによる周知活動で情報提供の充実が図られたため。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だよりやホームページなどの内容の充実に努め、また、福祉協力店などを活用し、地域住民へ福祉サービスなどの情報を提供します。
- ▶ 地域ごとの広報紙の作成などによる情報提供の仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域住民へ福祉情報の提供	◆地域壁新聞、福祉協力店の情報をホームページに掲載し、更新に努めた ◆地域福祉活動補助金制度で自治会の広報誌発行支援 ◆地域支え合い推進員がサロン等の福祉活動に訪問し、壁新聞を発行した。	◆地域住民へ福祉情報の提供・支援ができた。	◆地域で実施している福祉活動の周知	B	◆ホームページの内容を充実させた。	継続
総務・経理係	◆偶数月（年6回）に社協だよりを発行する。 ◆社協からの最新の情報をHPに掲載する。	◆協だよりについては、昨年度からの連載を継続して掲載し、内容の充実に努めた。 ◆HPについては、ボランティア壁新聞コーナーの専用サイトを新たに設けた。	◆HPで新しいコーナーを増設したことで、より多くの情報を発信することができた。	◆内容の充実に努めていく。	B	◆HPについて、新たな情報発信コーナーを設けることができた。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域ごとで広報紙の作成などによる情報提供の仕組みづくりを検討します。
- ▶ 回覧板や広報紙などをみる習慣を身につけます。
- ▶ 地域の中で福祉に関する情報を共有するように努めます。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会での広報誌を発行し、福祉活動の情報を発信した ◆公民館等で福祉に関する情報の掲示 ◆コミュニティで広報誌を発行し、福祉活動の情報を発信した ◆社協で地域の取組・活動をまとめた壁新聞を地域内に掲示・回覧し、情報提供を行った。
総務・経理係	◆各戸配布されている社協だよりから福祉の情報を得ている。

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり
 施策の方向性 2 地域福祉のニーズキャッチの充実
 今後の取組 (1) 地域における福祉活動を通じたニーズキャッチ
 ① 行政
 ▶ 地域における、子ども、高齢者、避難行動要支援者などの見守り活動などを通じたニーズをキャッチする仕組みづくりを推進します。
 ▶ 積極的に地域へ出向いて、ニーズをキャッチする仕組みを検討します（アウトリーチ）。
 ▶ 福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、ニーズのキャッチに努めます。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆地域における、子ども、高齢者、避難行動要支援者などの見守り活動などを通じたニーズをキャッチする仕組みづくりを推進する。</p> <p>◆積極的に地域に出向いて、ニーズをキャッチする。</p> <p>◆福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、ニーズをキャッチする。</p> <p>◆地域住民助け合い事業（15公民館）</p> <p>◆地域支え合い推進員の配置（15公民館）</p> <p>◆地域包括支援センターによる実態把握</p> <p>◆地域ケア会議の開催</p>	<p>◆民生委員の定例会に、行政の立場として参加し、地域の福祉需要の情報収集に努めた。</p> <p>◆避難行動要支援者支援制度の普及、促進を図るため、自治会長や民生委員に対して制度の説明を行い、地域における制度の周知を依頼した。</p> <p>◆地域自立支援協議会の各専門部会において福祉従事者や当事者から地域課題の抽出を行っている。</p> <p>◆地域支え合い推進員を15公立公民館に配置した。</p> <p>H29…10公民館 H30…14公民館</p> <p>◆見守り活動等を79自治会が実施した。</p> <p>H29…55自治会 H30…71自治会</p> <p>◆地域ケア会議の開催 各地域包括支援センターが黒磯（7圏域）・西那須野（2圏域）・塩原（1圏域）を対象に開催した。</p>	<p>◆民生委員の定例会において、個別の相談事案（引きこもり事案等）の情報収集し、市の関係部署につなぐことができた。</p> <p>◆自治会長や民生委員等避難支援等関係者と連携する体制を構築することができたが、一般市民に関しては避難行動要支援者支援制度の周知が図られていない。</p> <p>◆福祉従事者に加え当事者からも直接ニーズを把握することができた。</p> <p>◆地域包括支援センターや地域支え合い推進員が、地域住民を交えた会議や活動を通じ、子ども、高齢者等のニーズを把握できる体制を拡充することができた。</p>	<p>◆民生委員の定例会議に引き続き出席し、地域での困りごとなど、福祉の需要の情報収集に努める。</p> <p>◆把握したニーズを施策に反映する仕組みや、関係課が横断的に情報共有する仕組みを検討する。</p> <p>◆地域課題について話し合う場やニーズを把握する場として、見守り活動等を実施する自治会を増やしていく。</p>	B	<p>◆引き続き、情報収集をしていく必要があるため。</p> <p>◆地域や当事者から直接的にニーズを把握する仕組みとはなっていないが、間接的な把握ができていたため。</p> <p>◆事業者や当事者を通して、間接的に地域のニーズが把握ができていたため。</p> <p>◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで地域のニーズを把握できる体制を拡充することができたため。</p>	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<p>◆地域における子どもの見守り活動やNPO法人等と連携し、ニーズのキャッチに努める。</p> <p>◆福祉関連NPO法人と連携し、ニーズのキャッチに努める。</p>	<p>◆民生委員児童委員の会議等への出席や、NPO法人と情報共有を図り、現状把握に努めた。</p> <p>◆ファミリーサポートセンターの運営と公設放課後児童クラブの運営を委託しているそれぞれのNPO法人と連携し、利用者からの生の声を聴き、ニーズの把握に努めた。</p>	<p>◆民生委員児童委員の会議等への出席や事業受託NPO法人との意見交換により、地域の現状や利用者のニーズの把握に努めた。</p> <p>◆公設児童クラブについて、運営を一括委託としたことにより、利用者の声が行政に届きにくくなった現状がある。</p>	<p>◆ニーズをキャッチするためのさらなる仕組みを検討していく。</p> <p>◆NPO法人との定期的な意見交換を継続する。</p>	B	◆民生委員児童委員やNPO法人等委託事業者と連携したニーズの把握が図られているため。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 職員が積極的に地域に出向き、支援が必要な人の情報をキャッチするよう努めます（アウトリーチ）。
- ▶ 社協が行う高齢者、障害者、生活困窮者などに対する事業を展開する中で、支援が必要な人の早期発見に努めます。
- ▶ 各種福祉団体との連携の中で、支援が必要な人の早期発見に努めます。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人の情報が共有できるような仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 日頃からの見守り活動を通じて生活の中で異変に気づいた際に専門機関などに連絡するような体制づくりを支援します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業の実施 ◆配食サービス事業の実施 ◆心身障害児者父母の会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会の見守り活動を支援し、見守り対象者の情報を共有 ◆見守り活動を通じて、地域の中の心配な方の早期発見に努めた ◆配食、給食サービス事業の配送ボランティアと連携し利用者の情報を共有 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事業の対象者に異変があったときに関係機関と連携し対応した。見守り活動を通じて、支援が必要な人の早期発見に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援が必要な人を早期発見できるような支援体制の構築 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆対象者に異変があったときに関係機関と連携し対応した。 	継続
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆困りごとを抱えている人の情報が入った際には、本人の了承を得て、自宅に訪問する。 ◆相談者の抱える問題を確認し、必要な関係機関と連絡を図る。 ◆見守りが必要な人には、関係機関に報告し、見守り体制を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各関係機関から心配な方などの情報提供があり、必要に応じ訪問し、サービス提供につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各関係機関から情報提供があり、ニーズキャッチにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今後も関係機関と連携を強化していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆必要に応じ訪問することができている。 	継続
福祉サービス支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域における支援が必要な高齢者、障害者の早期発見、支援につなげる仕組みづくりを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域支援係や生活支援係などと連携し、地域での支援が必要な方への継続的な支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援における係間の連携ができ、必要な支援の必要な人の発見ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆職員、係間の連携により、支援者の把握を行うことができて来たが、情報の共有できる仕組みづくりの方法をさらに検討する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆各係、支所等を通じての相談が増えてきた。情報の共有する方向性はできてきている。 	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> ◆外部団体などとのネットワークを強化 ◆講座等を開催し地域の仕組みづくりを行う ◆社協の他の係と連携し、地域課題の解決に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協の他の係や地域のボランティアと連携し、引きこもりの支援者が地域のボランティア団体に参加するための支援を行った。 ◆心の病気のある方が、ボランティア団体に加入したいとの相談を受け、ボランティア団体への参加に協力し、現在その方の居場所になっている。 ◆認知症の方が定期的にボランティアセンターに来室するので、その方の居場所としてお茶のみをしながら見守りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆外部団体や社協の他の係と連携し、地域課題の解決に関わることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今後もネットワークを拡大し、地域課題の解決に関わって行くことが必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援が必要な人のため、外部団体や社協の他の係と連携し、支援に関わることが出来た。 	継続
つくし	<ul style="list-style-type: none"> ◆つくし利用者の在宅での生活状況の把握にも努め、異変等に合わせたサービス利用につながるよう支援を行う。 また、その家族に対しても同様の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆変化に合わせたアドバイスや専門機関への助言やサービス利用につながるよう支援してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆相談支援専門員と連携を図り個人の生活状況や家族状況の変化に合わせた支援を行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆在宅でお酒を飲みすぎてしまう利用者の見守り等について、なかなか相談支援・サビ管より地域見守りの案は出てこない。気づくまで待ちたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題にぶつかりながらその都度、知識と意識の向上が図れている。 	継続
心の里	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者の状況を把握し、必要な支援、サービスを関係機関と連携し進めていく。 ◆利用希望者等の見学や実習を受け入れ、支援が必要な人への適切な対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者の相談支援員と連携し、サービスの利用を促進した。 ◆支援計画の枠にとらわれず、柔軟な対応で支援を進めた。 ◆施設見学や実習を受け入れ施設の情報を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆関係機関と連携し、利用者の生活改善のため、支援計画の枠にとらわれず、他事業所との情報交換や直接支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者が必要とするサービスの利用開始に向け、関係機関と連携し支援していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆見学者の受け入れ及び利用の開始。 ◆利用者自身で表出困難なニーズ理解 	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ふれあいの森	<p>◆施設内において、利用者の変化を察知しいち早くニーズを捉える体制づくりを徹底する。</p> <p>◆利用者や保護者の方の根底にあるニーズキャッチが出来るように、個別面談等を行う。</p>	<p>◆日常の支援の中で気づいたことを保護者や相談支援員に伝え、医療機関受診やサービス利用へつないだ。</p> <p>◆多職種連携会議で情報交換を行い、社協他部門へ利用者の現状を伝えた。</p> <p>◆利用者及び保護者との個別面談により具体的なニーズキャッチが出来た。</p>	<p>◆独居利用者の住宅設備の異常を相談支援員へ伝え対応してもらった。生活改善の必要な利用者宅があるが、的確なサービス利用へ繋がらない。</p>	<p>◆利用者の困りごと等の情報を速やかに関係機関へ伝え対応する。職場内での情報共有と記録をする。</p>	B	<p>◆利用者支援の中で気づいた事を保護者や関係機関へ伝え対応した。</p>	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域見守り活動や、地域ケア会議などを通じて、課題やニーズをキャッチします。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人の情報を共有する方法について検討します。
- ▶ 日頃からの見守りや、日頃の生活の中で認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変や虐待に気づいた際には、行政、民生委員・児童委員、社協、地域包括支援センターなどに連絡します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会での見守り活動を通じて、支援者の情報共有や関係機関の連携を行った。 ◆地域ケア会議に参加し、地域の課題について検討し、さらにその課題についての勉強会、検討会に参加した
生活支援係	◆生活に困窮している世帯について、地域包括支援センターへ情報提供し、支援に繋がった。
つくし	◆利用者やその家族の異変に合わせた関係機関につなぐことはできているが、地域支援の視点の強化はまだまだできると思われる。
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> ◆朝の打合せを始め、職員間で常に利用者についての情報を共有し必要な情報を保護者及び関係機関へつないでいる。 ◆個別面談時に、利用者及び保護者からのニーズを聞き取り、施設内での活動に反映している。 ◆相談支援員に利用者の状況を伝え施設利用の継続を促した。 ◆多職種連携会議で情報交換を行い、障害施設利用者の現状を社協の他部門へ伝えた。
心の里	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設内だけの支援だけではなく、利用者の生活全般へのニーズに対し、他の社会資源に繋げたり、連携を図りながら支援をし、生活の質の向上に努めた。 ◆相談支援員、他事業所等、利用者に係る機関と密に連絡をとり、利用者が安心してサービスを利用できるよう支援した。

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり
 施策の方向性 2 地域福祉のニーズキャッチの充実
 今後の取組 (2) 民生委員・児童委員と連携したニーズキャッチ
 ① 行政
 ▶ 民生委員・児童委員と自治会などが連携協力し、地域における福祉ニーズをキャッチする仕組みづくりを推進します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員児童委員との連携を図り、地域のニーズをキャッチする体制を構築する。 ◆民生委員活動の中、生活に困窮する者の発見及び見守り活動を行う。 ◆地域住民助け合い事業（15公民館） ◆地域支え合い推進員の配置（15公民館） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員の定例会に、行政の立場として参加し、地域の福祉需要の情報収集に努めた。 ◆地域支え合い推進員を15公立公民館に配置した。 H29…10公民館 H30…14公民館 ◆見守り活動等を79自治会が実施した。 H29…55自治会 H30…71自治会 ◆地域ケア会議の開催 各地域包括支援センターが黒磯（7圏域）・西那須野（2圏域）・塩原（1圏域）を対象に開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員の定例会において、個別の相談事案（引きこもり事案等）の情報を収集し、市の関係部署につなぐことができた。 ◆見守り活動の増加や地域ケア会議の開催により、民生委員児童委員との連携する機会が増え、地域のニーズを把握できる体制を拡充できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員の定例会議に引き続き出席し、地域での困りごとなど、福祉の需要の情報収集に努める。 ◆地域課題について話し合う場やニーズを把握する場として、見守り活動等を実施する自治会を増やしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆引き続き、情報収集をしていく必要があるため。 ◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで地域のニーズを把握できる体制を拡充することができたため。 	継続
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員と連携し、ニーズのキャッチに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員児童委員の会議等に参加し、情報提供及び提供方法の確認を行うとともに、地域の情報収集及び情報共有に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員児童委員の会議等に参加し、地域の現状の把握に努め、情報提供及び提供方法の確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域における福祉ニーズをキャッチするためのさらなる仕組みを検討していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ニーズをキャッチするまでには至っていないが、地域の現状把握ができるようになってきたため。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 民生委員・児童委員と情報の共有や連携を強化し、ニーズのキャッチに努めます。
- ▶ 民生委員・児童委員と地域住民が連携し、地域のニーズをキャッチする仕組みづくりを支援します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆民生委員・児童委員との情報共有及び連携強化	◆地区定例会・専門部会に参加し、情報の共有及び連携の強化を図る ◆民生委員と連携し、自治会の見守り活動を推進し、心配な方を支援した	◆民生委員と連携し情報を共有し、地域支援を行った	◆地域のニーズをキャッチする仕組みづくりの強化	B	◆民生委員と連携し情報を共有した。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 日頃から民生委員・児童委員の業務を理解し、自分の住んでいる地域で支援を必要としている人を担当している民生委員・児童委員を把握します。
- ▶ 民生委員・児童委員と地域住民が連携し、地域のニーズをキャッチする仕組みづくりに協力します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員児童委員と自治会役員で連携し、地域内の状況を把握するための情報交換を行った。 ◆自治会の福祉活動（友愛訪問・生きがいサロンなど）を民生委員・児童委員と連携して実施 ◆見守り活動を通して、民生委員・児童委員と連携し心配な人の支援にあたった

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり
 施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進
 今後の取組 (1) 日常生活を支援する地域における福祉活動の充実
 ① 行政
 ▶ 地域課題の解決のための体制づくりを推進します。
 ▶ ごみ出し、買い物、通院などのボランティアの仕組みづくりを推進します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆地域課題の解決のための体制づくりを推進する。</p> <p>◆地域住民助け合い事業（15公民館）</p> <p>◆地域支え合い推進員の配置（15公民館）</p>	<p>◆地区民児協定例会に行政関係者の参加を促し、地域課題の解決のために民生委員と連携を密にする体制づくりに努めた。</p> <p>◆地区民児協定例会に参加し、地域課題の解決のために民生委員と連携を密にする体制づくりに努めた。</p> <p>◆地域支え合い推進員と連携し、自治会訪問の際に同行することで、地域課題解決のための体制づくりの推進を図った。</p> <p>◆地域支え合い推進員を15公立公民館に配置した。 H29…10公民館 H30…14公民館</p> <p>◆見守り活動等を79自治会が実施した。 H29…55自治会 H30…71自治会</p> <p>◆地域ケア会議の開催 各地域包括支援センターが黒磯（7圏域）・西那須野（2圏域）・塩原（1圏域）を対象に開催した。</p>	<p>◆各自治会が避難行動要支援者支援制度や地域住民助け合い事業に主体的に取り組むことにより、各地域の特性、課題が浮き彫りとなり、問題解決のための体制づくりのきっかけとなった。</p> <p>◆見守り活動の増加や地域ケア会議の開催により、地域のニーズを把握できる体制、地域で見守り合う体制を拡充することができた。</p>	<p>◆地域課題を話し合いの場の設置について検討し、課題集約の仕組みの確立を図る。</p> <p>◆地域課題について話し合う場やニーズを把握する場として、見守り活動等を実施する自治会を増やしていく。</p>	B	<p>◆引続き、地域における体制整備の支援が必要である。</p> <p>◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで地域のニーズを把握できる体制を拡充することができたため。</p>	拡充

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で定期的に地域課題の解決に向けて話し合う場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動や生活支援に関わるボランティアの仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 福祉施設の中にある空きスペースなどを地域の居場所として活用できるよう支援の方法について検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆福祉施設の地域交流スペースなど活用した居場所づくりの支援	◆福祉施設の地域交流スペースなど活用した居場所が増えてきた。(ケアラー、当事者の居場所、こども食堂) ◆地域住民が中心となり、地域内にあるショッピングセンター内会場の一部を活用し、居場所づくりを開始した	◆福祉施設の地域交流スペースなど活用した事業等の支援ができた。	◆福祉施設の空きスペースを有効活用した事業等の支援強化	B	◆地域における福祉活動を支援した。	継続
ボランティアセンター	◆こどもの支援に関わる団体や居場所づくりに関わる団体などとのネットワークづくりや情報交換を行う ◆講座等を開催し地域の仕組みづくりを行う。 ◆地域支援(福祉)係との連携による地域課題の解決や仕組み作りを行う。	◆ボランティアセンターで、ボランティアや福祉団体等が、認知症カフェやボランティアの活動の場として利用している。	◆ボランティアセンターが様々な団体などの活動拠点として利用されるようになった。	◆さまざまな地域課題に対し、社協だけでなくボランティアと連携し、地域に関わって行くことが必要。	B	◆ボランティアセンターが地域活動やボランティア活動の拠点となり、多くの団体やボランティアが利用することで、さまざまなネットワークが出来てきた。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 定期的に地域課題の解決に向けて話し合う場を設け、市や社協などと連携して問題解決に努めます。
- ▶ 自分のできる範囲で、地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動をします。
- ▶ ごみ出し、買い物、通院などの生活支援に関わるボランティアの仕組みづくりを検討します。
- ▶ 福祉施設の中にある空きスペースなどを地域の居場所として活用できるよう検討します。
- ▶ 自分のできる範囲で、ボランティア活動などに主体的に参加します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会での見守り活動を実施し、定期的に情報交換の場を設けたり、心配な人の支援にあたった ◆福祉施設の空きスペースを活用した居場所に参加した。 ◆地域ケア会議への参加し、地域の課題について検討し、さらにその課題についての勉強会、検討会に参加した ◆見守り等の会合に参加し、地域課題をできるだけ把握し、市や包括等と連携して問題解決に努めた

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (2) 支援が必要な人への福祉サービスの充実

① 行政

- ▶ 障害がある人が、自立した日常生活又は社会生活を営めるよう、地域生活支援事業の充実を図ります。
- ▶ 認知症の人への支援の充実を図ります。
- ▶ スクールソーシャルワーカーを活用し、学校における諸問題を解決する仕組みの充実を図ります。
- ▶ ニーズキャッチで得た情報を活用し、ニーズに応じた福祉サービスの提供に努めます。
- ▶ 一時的に子どもを預けられる場の充実に努めます。
- ▶ 子育て中の親の孤立を防ぐ仕組みづくりを検討します。
- ▶ 地域における引きこもりや社会的な孤立を防止する仕組みを検討します。
- ▶ 個別計画を通じて、福祉サービスを提供する民間事業者の育成に努めます。
- ▶ 生活困窮者への支援体制の充実を図ります。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
----	------------	------------	-------	-------	----	------	----

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育て中の親の孤立を防ぐ仕組みづくり ◆一時的に子どもを預けられる場の充実に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆商業施設内に子育てコミュニティ広場を開設し、子育て情報の発信及び子育て世帯が気軽に交流できる場を提供した。 ◆子育てコンシェルジュが個々の相談に応じた情報提供を行った。 ◆子育て短期支援事業（ショートステイ）の実施 ◆病後児保育（3か所） H29…3箇所 H30…3箇所 ◆休日保育（2か所） H29…3箇所 H30…3箇所 ◆一時保育（9か所） ◆ファミリーサポートセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育てコミュニティ広場の開設により、さらに多様なニーズに対応した子育て環境の充実が図られた。 ◆病児、病後児保育やファミリーサポートセンターは中学生まで利用できるが、受け皿として、休日や病気の子どもの預け先が少ない状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育てサロンマップやHP等の掲載内容や情報発信の方法を工夫する。 ◆ファミリーサポートセンターの積極的周知により、サポート会員の増員を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育てコミュニティ広場の開設により、さらなる子育て環境の充実が図られた。 	継続
教育部	<ul style="list-style-type: none"> ◆SSWrによるソーシャルワークの実施 ◆教職員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SSWrによる対応件数3,377件（1月末現在） H29…2,069件（2月末現在） H30…2,480件（2月末現在） ◆教職員研修もケース介入時に随時実施している。 ◆SSWr4名に増員 H30…3名 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SSWrの存在が学校現場に定着し、学校と連携がスムーズにいくようになった。 ◆さらなる県や関係機関との連携強化が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆4名のSSWrが効率よく動けるようなシステムの構築をしっかりとすることでさらに充実した支援ができる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆介入ケースについては概ね良い方向に向かっていているため。 	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ◆障害のある人が、自立した日常生活又は社会生活を営めるよう、日常生活用具給付事業を拡充する。 ◆認知症サポーター養成講座の開催 ◆認知症初期集中支援チームの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域自立支援協議会の専門部会において民間事業者の育成及びサービスの質の向上を図っている。 ◆認知症サポーター養成者数 延べ6,713人(見込)のサポーターを養成した。 H29…5, 104人 H30…5, 875人 ※いずれも延べ人数 	<ul style="list-style-type: none"> ◆関係機関とともに福祉サービスの充実、福祉従事者の育成に取り組んでいるが、事業展開は民間事業者の判断によるため、制度改正や報酬改定の影響が大きい。 ◆認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の人やその家族の気持ちを理解しようとするサポーターを増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日頃からニーズの把握に努め、制度改正や人材育成に取り組み、福祉サービスの量と質を向上させる。 ◆小中学校、企業や商工会などに加え、地域住民助け合い事業による地域づくりの一つとして、自治会を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、一人でも多くのサポーターを増やしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆関係機関と連携し、福祉サービスの充実について検討がなされているため。 ◆認知症サポーターの増加により、認知症の人と家族を地域で支える意識の啓発の一助となった。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐ仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 生活困窮者や引きこもりの人・制度の狭間にいる人などへの支援の充実を図ります。
- ▶ ニーズキャッチで得た情報を活用し、市民や関係団体の活動に対する支援の方法について検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域住民助け合い事業で自治会の見守り活動を支援	◆自治会の見守り活動や居場所づくりを支援し、地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進するため、関係機関と連携した ◆ひきこもり支援の居場所ができた	◆地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進	◆自治会の見守り活動の支援	B	◆地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進した。	継続
生活支援係	◆支援が必要な方を早期に発見できるよう、関係機関と連携をとり情報共有を図る。	◆金銭面の相談だけではなく、その背景にある問題に対し、支援を行ってきた。 ◆他機関と連携し、それぞれの強みを活かした支援を検討してきた。	◆問題が複合化しており、問題解決に至るまでには時間がかかる。引き続き、相談者が自立できるよう、寄り添い支援が必要である。	◆担当部署だけで問題を解決することは難しい。引き続き、所内・行政・地域と連携をしながら支援を継続していく。	B	◆他機関との情報共有と役割分担が確立してきている。今後も連携を強化していきたい。	継続
福祉サービス支援係	◆地域の中で子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐ仕組みづくりの支援の方法について検討します。	◆引き続き、地域の高齢者・障害者へサービス利用による支援を行うことができた。	◆個別支援を行うことはできたが、孤立を防ぐ仕組みづくりまでは至れなかった。	◆直接的な支援だけではなく、仕組みづくりの支援までを目的とするため、地域ケア会議などを活用した積極的な仕組みづくりの支援に向けての活動が必要。	B	◆地域支援係や生活支援係につなぐことにより地域資源につなげる支援を行うことができた。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐための仕組みづくりを検討します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会で支援が必要な人に対する見守り活動を行い、孤立防止に努めた。 ◆地域の中に居場所をつくり、心配な人の孤立を防いだ。 ◆社協の地域福祉活動補助金事業等を活用しながら、地域内の孤立予防や外出の機会として実施した。 ◆地域住民助け合い事業を実施し、市や包括等と連携しながら、心配な人（世帯）に対する見守り活動を行い、孤立防止に努めた。
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの健診や行政の手続きの際に困りごとの事業の情報提供があった。

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (3) 権利擁護などの推進体制の充実

① 行政

- ▶ DV被害者、虐待被害者などへのサポート体制の充実を図ります。
- ▶ 成年後見制度の活用及び体制の充実を図ります。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆男女間のあらゆる暴力の根絶を目指した様々な事業を推進する。	◆DV対応マニュアルの改訂を図った。 ◆職員研修会の対象を広げ、庁内関係課の実務担当者のほか、学校や保育園等の関係者に対しても参加を呼び掛けた。 ◆各種イベント等において、デートDV防止パンフレットを配布し、啓発を図った(400部)。 ◆民生委員児童委員(母子父子福祉部会・児童福祉部会)を対象に、研修会を実施した。	◆DV対応マニュアルを策定したことにより、関係課を含めた対応を統一することが出来た。 ◆研修会の受講対象者を広げるにより幅広い周知に努めた。	◆関係課を含めた継続的なスキルアップ ◆DV防止を目的とした広報啓発の実施	B	◆研修会等によりスキルアップを図り、イベント等でDV防止に関する広報啓発を行うことで地域での関心が高まっているため。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ◆DV被害者、虐待被害者などへのサポート体制を充実させる。 ◆成年後見制度の活用及び体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆障害者虐待防止法に基づく一時保護の居室の確保に関し、那須地区内の3施設と協定を締結し、緊急時の受入れ体制を整備している。 ◆成年後見制度利用支援事業として、市長申立てにかかる費用や、成年後見人報酬への助成、司法書士会による相談会を実施している。 ◆地域包括支援センターと連携し、高齢者虐待支援、成年後見制度の利用支援を行っている。 ◆後見人報酬の助成を行い、後見人を支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆居室確保の協定に基づき障害者虐待被害者の緊急一時保護が円滑に行えた。 ◆必要な方が成年後見制度を利用することができる。 ◆パンフレットによる周知啓発、成年後見制度の利用に関する相談、その手続きの支援を行いながら、適正な利用につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆障害者虐待防止法による対応方法とDV防止法による対応方法が異なるため、初動時の判断が重要となる。 ◆成年後見制度利用支援事業の認知度が低い。 ◆高齢者の増加に伴い、虐待や後見人に関する相談が増えると予想されるため、戸別訪問時に、制度の周知啓発や利用が必要な方の把握を行い、サポート体制を充実していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆虐待案件に対しては、関係機関と連携して対応ができていたため。 ◆地域包括支援センター等と連携し成年後見制度の利用や高齢者虐待の解消につなげることができたため。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 社協が行う高齢者・障害者・生活困窮者などに対する事業を展開する中で、NPO法人などの関係機関と連携を図りながら支援が必要な人の権利擁護に努めます。
- ▶ 認知症や知的障害があり、日常生活に不安を抱える人などに対し、「あすてらす(日常生活自立支援事業)」での支援の充実を図ります。
- ▶ 権利擁護に関する住民向けの講演会などへ参加できるように支援の方法について検討します。
- ▶ 行政と連携し、成年後見制度の活用及び体制づくりに努めます。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆権利擁護に関する住民向けの講演会、説明会へ参加できるよう支援の方法について検討する。 ◆行政と連携し、成年後見制度の活用にあつめます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆市と協力しながら日常生活に不安を抱える人を支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆あすてらすにつないだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆同じように支援を必要とする人を関係機関と共有。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆実際に支援した。 	継続
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆相談者の中で、権利擁護制度が必要な方に関しては、関係機関と連携しながら支援を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆関係機関との連携はできており、新規の相談も増えている。また、あすてらす利用の対象となる基準を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆関係機関と確かな連携を進めるため、利用対象者の基準を整理し、まとめることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆次年度から新基準による運用を行う。関係機関への説明等を行い、より理解が深まることを期待したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆基準を作成したことで、連携もより明確になっていくことが期待できるため。 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 日頃の生活の中で認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変や虐待に気づいた際には、行政、民生委員・児童委員、社協、地域包括支援センターなどに連絡します。
- ▶ 権利擁護に関する講演会などに参加し、制度への理解を深めます。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	◆日頃の生活の中で認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変や虐待に気づいた際には、行政、民生委員・児童委員、包括等と連携し、共に行動した。
生活支援係	◆民生委員に地域で困っている人の情報提供をした。

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (4) 地域包括ケアシステムの構築の推進

① 行政

▶ 総市民・関係団体などと連携し、総合的な相談・支援体制の確立を目指す、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆市民・関係団体などと連携し、地域包括ケアシステム構築のため、地域ケア会議、協議体、多職種連携会議により、協議、検討を行う。	◆那須地区単位で精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて検討しており、モデルケースづくりに取り組んだ。 ◆地域共生社会を踏まえた地域包括ケアシステムの実現に向け、各種会議を開催した。 ・地域包括ケア推進会議：2回開催 H30…1回 ・地域包括ケア推進担当者会議：6回開催 H30…6回 ・地域ケア会議の開催 各地域包括支援センターが黒磯（7圏域）、西那須野（2圏域）、塩原（1圏域）を対象に開催した。	◆これまで検討してきた精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて、モデルケースづくりとして実際に本市の対象者の退院後支援に取り組むことができた。 ◆市民や地域団体等と連携し、高齢分野や障害分野等の地域課題を把握し、課題解決に向けた検討を行うことができた。	◆地域生活支援拠点整備と地域包括ケアシステムの役割、共生型サービス等について更なる検討を要する。 ◆地域課題の把握や検討を行いながら、地域共生社会を踏まえた地域包括ケアシステムを実現できる体制を整備していく。	B	◆各分野において様々な検討が進められているが、全体的な検討体制となっていないため。 ◆市民や地域団体等と連携した支援体制を整備することができた。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆総合的な相談・支援体制の確立を目指す、地域包括ケアシステムの構築を推進する。	◆地域共生社会実現に向けて庁内会議を開催し、複合的な福祉課題について協議を行った。 ◆関係団体の勉強会などに参加し情報収集を行った。 ◆関係機関の実務担当者から意見を聴取しながら、発達支援に関連する相談先を分かりやすく紹介するために「相談窓口ガイド」を作成し、窓口等に設置した。	◆実務担当で構成する庁内会議、庁外関係者の会議等の開催により、部門横断的な情報共有が図られた。	◆相談内容に関連する諸制度や相談ニーズに対応するために、相談員等の知識、スキルの向上に努める。	B	◆総合的な窓口の設置には至っていないものの、部門横断的な連携、情報共有を図る状況が多くみられたため。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 行政・市民・関係団体と連携し、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域包括ケア推進会議等に参加し地域の課題を検討 ◆第2層協議体の設置推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域包括ケア推進会議等に参加 ◆一部の地区で第2層協議体を設置、情報交換を実施した 	◆一部の地区で第2層協議体を設置した	◆第2層協議体の設置に向け、行政・地域包括支援センターと連携強化	B	◆行政、地域包括支援センターと連携し、地域包括ケアシステムの構築を推進した。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域住民助け合い事業などを通じて、地域での問題の把握や解決方法の検討などに努めます。
- ▶ 地域ケア会議などの充実に努め、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ケア会議に参加し、地域の課題について検討し、さらにその課題についての勉強会、検討会に参加した ◆地域住民助け合い事業を実施している自治会で異変のあった住民に関する事例検討会を行った。

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 1 生活環境の充実

今後の取組 (1) 日常生活における移動手段の充実

① 行政

- ▶ ゆーバス、予約ワゴンバスなどの公共交通システムの現状を検証し、利便性の向上を図ります。
- ▶ 日常生活上の移動に関する支援体制の検討、充実を図ります。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活環境部	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域公共交通網形成計画を策定する。 ◆地域バスの運行経路、ダイヤを随時検討する。 ◆住民懇談会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ゆーバスは平成30年10月の再編により、利便性が向上し、利用者数が増加した。 ◆ゆータクは平成30年10月から運行を開始し、利用者数の増加と運行経費の縮減を達成できた。 ◆令和2年10月の第2段階の再編に向けて、利用者数や利用状況の分析を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域バス路線の再編により、需要のある西那須野駅・那須塩原駅・黒磯駅をつなぐ路線の便数を増やし、利便性を向上させた結果、利用者数が増加した。 ※令和2年1月までのゆーバス利用者数：140,301人(前年同期比：111.9%) ◆ゆータクの導入により、一部路線を除く予約時間の短縮やのりばの増設、予約の無いのりばは通らずにショートカットを可能として利便性を向上させ、利用者数が増加した。 ※令和2年1月までのゆータク利用者数：13,981人(前年同期比：143.2%) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用実績の分析をし、令和2年10月の再編に向けて、運行の効率化や利便性の向上について検討し、よりよい公共交通網の形成を実施していく。 	A	◆利便性の向上により利用者を増加させつつ、運行経費の縮減を達成できているため。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆日常生活上の移動に関する支援体制の検討、充実を図る。</p>	<p>◆法定サービスとして居宅介護（通院介助）、同行援護、行動援護を提供している。</p> <p>◆福祉タクシー券、車椅子タクシー券を交付している。</p> <p>◆地域生活支援事業として移動支援を実施している。</p> <p>◆福祉タクシー利用券の交付 1,915件（見込） H29…1,768件 H30…1,829件</p> <p>◆高齢者タクシー利用券の交付 2,504件（R2.1末現在） H29…2,188件（H30.1末現在） H30…2,348件（H31.1末現在）</p>	<p>◆障害者の通院や買物などの日常生活における外出支援に寄与した。</p> <p>◆法定サービスの基準に該当しない方、地理的に移動が長距離となる方、サービス提供事業所がない地域の方は利用しづらくなってしまう。</p> <p>◆高齢者の通院や買物などの日常生活における外出支援に寄与した。</p>	<p>◆公共交通機関、コンパクトシティの在り方と連動し、移動手段の確保についても検討する。</p>	B	<p>◆市独自の事業としてタクシー券を交付し、件数も年々増加していることから、障害者の通院や買物などの日常生活における移動支援に寄与した。</p> <p>◆順調に交付件数が増加し、移動に関する支援が行えているため。</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 市や地域住民と連携し、自治会やコミュニティ単位で公共交通の効果的な利用方法などを検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で移動が困難な人の送迎や買い物、通院などの支援を行う住民主体の活動の支援の方法について検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域の中で公共交通も含めた地域課題についての話し合いの場を設け、実践につなげていく	◆にしなすケアネットから派生した交通問題検討会を2月に実施。公共交通の強化、地域ぐるみで移送に取り組めないかなどを検討している。 ◆協議体での集まりの場にて、自治会長、地域住民と検討する場を年4回開催できた。	◆地域住民だけでなく、福祉職や市議会議員も含めた話し合いを行い、課題共有ができた	◆課題共有はできたが、実践に向けニーズ把握や体制を整える必要がある	B	◆多種多様な立場の人たちで検討が進みだしてきている	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 自治会やコミュニティ単位で公共交通の効果的な利用方法などについて検討します。
- ▶ 移動が困難な人の送迎、買い物や通院の支援を検討します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆にしなすケアネットから派生した交通問題検討会に参加し、課題共有や情報共有を行った ◆障害者事業所や介護保険事業所において、買い物代行などの生活支援を実施している ◆助け合いの活動の中で移動が困難な方の支援あるいは支援の方法について検討、実施している ◆自治会等の話し合いの場で地域内で行われている移動手段や買い物方法について話し合った

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 1 生活環境の充実
 今後の取組 (2) 安心・安全のための生活環境の充実
 ① 行政
- ▶ 公共施設のバリアフリー化の推進を図ります。
 - ▶ 安全のため、道路・交通施設の整備を推進します。
 - ▶ 道路管理者、警察、学校、PTAなどが連携し、通学路の安全対策を推進します。
 - ▶ 空き家、空き地の所有者に対して適切な管理を促します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆公共施設のバリアフリー化の推進を図る。(新庁舎建設を推進する。)	◆実績なし	◆那須塩原駅周辺まちづくりビジョン策定の為、新庁舎建設基本設計・実施設計は未実施。	◆新庁舎建設基本設計に早期に着手する。	D	◆未実施のため。	継続
総務部	◆施設の維持管理を実施	◆エレベーターの保守点検(エレベーターの運転状態、内装、照明、操作盤等の点検、外部への連絡装置の通話試験等)を3箇月に1回実施。	◆本庁舎のバリアフリー化については、多目的トイレ、身障者用駐車区画、正面玄関スロープ、エレベーター設置済み。安全に使用できるよう維持管理が必要。	◆定期的な点検を行い、不良個所の早期発見、対処を実施することで安全に使用することができる。	A	◆点検の結果、不具合なく良好であったためA評価とした。	継続
生活環境部	◆那須塩原市通学路交通安全対策プログラムにおいて通学路の交通安全対策を行う。 ◆市民等から空き地の相談を受けた際に、空き地の所有者に対し相談者の希望を伝え、適切な管理を促す。	◆道路管理者、警察、学校と連携して、通学路の危険個所の対策を行った。 ◆空き地対応件数(通知発送数) H29…143 H30…151 R1……158(2/25現在)	◆令和元年度那須塩原市通学路交通安全対策プログラムを遂行し、通学路の交通安全対策を実施できたが、今後も継続して、関係機関と綿密な連携をとることが必要である。 ◆空き地の相談について相談者の要望を空き地の所有者に伝え、適切な管理を促した。	◆那須塩原市通学路交通安全対策プログラムにおける関係機関の連携を強化し、児童が安全に登校できる環境を整備する。 ◆管理放棄された土地について、今度どのような対策をするべきか、国の動向も注視したうえで検討する必要がある。	A	◆計画を遂行できたため。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆公共施設のバリアフリー化を推進する。	◆地域自立支援協議会当事者部会より新庁舎建設に対する意見をまとめ、要望書を提出した。 ◆障害者からの意見や要望を随時聴取している。 ◆高齢者施設のバリアフリー化について、継続して検討。	◆障害者からの意見を聴取する機会はあるものの、設計書が完成してしまうと設計変更は困難となってしまう。 ◆高齢者施設の不便な箇所の有無を確認する必要がある。	◆公共施設の建設については、設計段階で障害者から意見を聴取する機会を設ける。 ◆高齢者施設の不便な箇所のバリアフリー化改修を行い、利用しやすい施設とする。	B	◆ユニバーサルデザインの普及により、バリアフリー化が推進されているため。 ◆不具合箇所の把握がされていないため。	継続
子ども未来部	◆公共施設のバリアフリー化の推進を図る。	◆放課後児童クラブ建設の際、玄関入口のスロープ設置、児童室床のバリアフリー化、多目的トイレの設置など利用者支援に努めている。 【R1公設児童クラブ建設】 高林小第2児童クラブ 東小児童クラブ 関谷小第2児童クラブ H29…3箇所 H30…2箇所	◆今年度建設した全ての施設でバリアフリー化が図られた。 ◆整備計画上、今後建設予定についてもバリアフリー化を推進する。	◆バリアフリー化が図られていない既存施設についての対応。	A	◆建設した全ての施設でバリアフリー化が図られた。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
産業観光部	<p>◆アグリパル塩原の改修を実施する。(H30～R1) <R1>▶施設全体改修</p> <p>◆青木ふるさと物産センターの建替を実施する。(R1～R3) <R1>▶建替に向けたコンセプトの整理(～R2) <R2～R3>▶施設建替のための実施設計、工事</p> <p>◆観光地公衆トイレを順次洋式化する。(H30～R1)</p>	<p>◆アグリパル塩原の全体改修については、予定どおり完了した。</p> <p>◆青木ふるさと物産センターの建替については、コンセプトの整理に着手した。令和2年度も継続する。</p> <p>◆観光地公衆トイレについては、3箇所洋式化を実施した(上の原園地、乙女の滝園地、板室園地)。今年度で和式便器のみの公衆トイレの洋式化工事は完了した。H30…2箇所(深山ダム園地、市営板室駐車場)</p>	<p>◆授乳室の新設や多目的トイレの設置を行い、利便性の向上が図られた。</p> <p>◆バリアフリーの視点でコンセプトを整理する必要がある。</p> <p>◆和式のみ公衆トイレについて洋式化し、高齢者や障がい者にもやさしい観光地として、環境改善が図られた。</p>	<p>◆授乳室等を快適に利用できるよう努めていく。</p> <p>◆バリアフリー化の視点を踏まえてコンセプトを整理する。</p> <p>◆男女1基ずつの洋式化であり、女子トイレには和便器が残る。今後は経年劣化等による交換で洋式化を行っていく。</p>	A	<p>◆計画どおり事業を実施できた。</p> <p>◆コンセプトの整理を進めることができた。</p>	継続
建設部	<p>◆安全のため、道路・交通施設の整備</p>	<p>◆通学路交通安全対策プログラム計上箇所 14箇所対策実施 H29…21箇所 H30…7箇所</p> <p>◆歩道整備(黒磯西岩崎線ほか17路線実施(用地取得等含む)) H29…21路線 H30…16路線</p>	<p>◆通学路交通安全対策プログラム(道路管理者、警察、教育委員会、学校、PTA連携)による通学路安全対策推進</p> <p>◆歩道の整備</p>	<p>◆毎年度の予算に合わせた整備推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路交通安全対策プログラム計上箇所 ・歩道整備路線(道路改良路線も含む。) 	A	<p>◆令和元年度予算分の事業が予定どおり実施できたため。</p>	継続
西那須野支所	<p>◆バリアフリー化に向けた調査・検討、実施</p>	<p>◆庁舎3階身体障害者用トイレの引戸及び足踏式洗浄バルブの不具合箇所の修繕を行った。</p>	<p>◆身障者用トイレの修繕を行った。庁舎の老朽化に伴う経年劣化等による不具合が発生した場合には早急な対応が必要となる。</p>	<p>◆施設の経年劣化による不具合については随時対応し、利用者に不便を掛けないために段差等の障害物の確認を行い、是正すると共にニーズに合った施設のあり方の検討及び調査を行っていく。</p>	B	<p>◆庁舎周辺は概ねバリアフリー化されているが、今後も施設の経年劣化に伴い、是正を行っていく必要があるため。</p>	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
塩原支所	◆バリアフリー化に向けた調査・検討・実施	◆事務室利用検討会議においてニーズ把握・バリアフリー化についての検討を行い、事務室配置替えを実施した。	◆設備面については喫緊の改修必要性はなく、点字ブロックについても充足されている。 ◆障害者や高齢者来庁時に、事務室が分断されているため、不便な部分があった。	◆全ての人に分かりやすい・使いやすい窓口にするため、事務室配置変更を行い、分断されていた窓口を一つに集約した。	A	◆庁舎のバリアフリー化はほぼ完了しており、現時点で更新の必要性もなく、来庁者の利便性も確保できたため。	終了
教育部	◆施設改修工事に併せ施設のバリアフリー化 ◆施設のバリアフリー化の推進として、予算内で施設の使いやすさを工夫する。 ◆道路管理者、警察、学校、PTAなどと連携し、通学路の安全対策を推進する。	◆学校トイレのバリアフリー化（高林小、東小、東那須野中、高林中） H29…3校 H30…4校 ◆学校施設の体育館改築による段差解消（埼玉小） H29…1校 H30…1校 ◆危険箇所調査の実施（夏休み期間中） ◆通学路安全推進会議の開催（R1.10） ◆対策箇所一覧表を市ホームページで公表（R1.12公表済み） ◆くろいそ運動場体育館トイレの洋式化（0→3） ◆くろいそ運動場体育館多目的トイレの改修 ◆くろいそ運動場テニスコート管理棟トイレの洋式化（0→3）	◆トイレ洋式化改修工事において、床モルタル打設工事の実施により、床段差解消が図られた。 ◆体育館改築により、体育館入口にスロープを設置し、段差解消が図られた。 ◆施設数が多いため、計画的、継続的な施設のバリアフリー化が必要であり、多額の費用を要する。 ◆通学路交通安全対策プログラムに基づく取組により、関係機関が連携した安全対策の推進を図ることができた。	◆各施設でバリアフリー化の推進を図るのではなく、公共施設全体でのバリアフリー化整備計画策定の検討が必要である。 ◆バリアフリー化の推進には、ソフト面の対応も重要であり、職員や施設利用者の他者への配慮、思いやりなどの「気づき」を心がけていく必要がある。 ◆通学路安全対策の取組については、PDCAサイクルとして継続的に実施する必要がある。	B	◆施設の改修工事等に併せバリアフリー化が図られた。 ◆通学路安全対策については目標とする取組が概ね実施できている。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 行政と連携を図りながら地域の中でのバリアフリー化を推進します。
- ▶ 地域住民の安心・安全に向けた活動を支援します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆バリアフリーの場所を地域に伝える ◆地域住民の活動への支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティア団体や市民活動団体へボランティア保険加入を勧めた ◆認知症サポーター養成講座の実施を勧めた ◆福祉協力店の情報をホームページに掲載し、そこにバリアフリーであるかどうかの情報も掲載した ◆当事者会と連携し、知的障がい・発達障がい啓発を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ハード面のバリアフリー情報の発信、ソフト面のバリアフリー啓発を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ◆バリアフリーの推進のためには、更に多機関との連携やネットワーク形成を進める必要がある 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆当事者会と連携し、障がいの啓発を行った 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 市の補助制度を活用した、自治公民館のバリアフリー化を検討します。
- ▶ 交通ルールの遵守やマナーの向上に努めます。
- ▶ 普段から近所同士で声をかけ合い、支援が必要な世帯への気配りを行います。
- ▶ 草刈りや除草活動を通じ、通学路の環境保全に努めます。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業を進めている ◆スクールガードや子どもの見守り、通学路の危険箇所の確認などを行っている ◆自治会ぐるみでの清掃や老人クラブ、ボランティアの奉仕活動に力を入れ、環境保全や住みやすい活動が継続されている

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実

今後の取組 (1) 地域における防災体制の充実

① 行政

- ▶ 地域の防災リーダーの養成・育成の充実に努めます。
- ▶ 自主防災組織の結成や活動を支援します。
- ▶ 地域での防災のため情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくりをします。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	<p>◆防災士養成事業及び防災士資格取得者研修会の実施</p> <p>◆自主防災組織育成支援補助金の交付</p> <p>◆自主防災組織結成の支援</p> <p>◆地域における防災情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくり</p>	<p>◆防災士養成講座（12/14・15）により、50人が新規に防災士を取得した。 H29…71人 H30…57人</p> <p>◆防災士研修会（3/1HUG）を予定したが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止</p> <p>◆自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備に対し補助金を交付した。</p> <p>◆5月に自主防災組織未結成の自治会を対象に、結成促進のための説明会を実施した。</p>	<p>◆養成事業による防災士資格取得者が496人（地域推薦330人）となったが、人材活用に地域差がある。</p> <p>◆自主防災組織の結成率が目標に至っていない。</p>	<p>◆地域の防災リーダーとしての防災士の活躍の場づくりについて検討を行う。</p> <p>◆自主防災組織未結成自治会への個別支援を強化する。</p>	B	◆地域の防災リーダーとなる防災士の養成、育成、自主防災組織の活動に対する支援を実施することができた。	継続
保健福祉部	<p>◆地域での防災のための情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくりを構築する。</p>	<p>◆避難行動要支援者支援制度について、自治会や民生委員に対して制度の説明を行い、また、地域における制度の周知を依頼した。</p>	<p>◆避難行動要支援者支援制度について、自治会や民生委員等の地域支援等関係者の制度への理解が深まった。</p>	<p>◆避難行動要支援者支援制度について、一般市民の制度理解を高める必要がある。</p>	B	◆避難行動要支援者支援制度について、全体的にみれば一定程度の理解が得られた。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で地域住民が普段から近隣と交流を持ち、災害時には支援を必要としている人の手助けができるような体制づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域住民が行う自主防災組織や防災訓練などの活動に対する支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中での防災情報の共有や活用方法などのルールづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営を行い、ボランティア活動を支援します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆避難行動要支援者、自主防災組織と地域住民助け合い事業との連携強化	◆地域住民助け合い事業を推進していく中で、普段のつながりが災害時の支援にもつながることを啓発している ◆地域住民から助け合い事業が避難行動要支援者や自主防災組織等と連携した取組をしている自治会への支援を行った ◆他地区の情報提供や自治会の広報づくりのアドバイスを行った。	◆関連する制度、事業との連携を強化していく必要がある。 ◆自治会未加入者への対応策の検討	◆地域に暮らす人全てが支え合いの対象になり、自治会などの負担にならない防災体制の構築	B	◆地域住民助け合い事業と避難行動要支援者支援制度を連携して実施している自治会が増えてきている	継続
総務・経理係	◆BCP（事業継続計画）研修に担当者が参加し、本会独自にBCP研修会を実施。	◆BCPを理解することで災害への意識を高めることができた。	◆台風19号の被害を受けた県内社協の支援に正職員のほとんどが災害ボランティアセンターの立ち上げを経験できた	◆災害時に対応できるようBCPを策定できた	B	◆BCPを策定し災害に備えられる体制を整えることができた	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	<p>◆中高校生ボランティアサマースクールのプログラムに災害についての体験をいれ、災害について学ぶ。</p>	<p>◆災害ボランティアの研修等への参加 ◆実際に被災地の災害ボランティアセンターの運営にたずさわリ、災害時の活動や運営方法を学んだ。(鴨川市・栃木市) ◆ボランティアワゴンを運行し災害ボランティア活動を支援した。 ◆ボランティアサマースクールで災害ボランティア講座を開催した。 ◆ボランティアセンターで所有している避難所運営ゲーム(HUG)を地域等で行われる災害活動に貸出をしている。</p>	<p>◆実際に被災地の災害ボランティアセンターの運営にたずさわリ、災害時の活動を学ぶことが出来たので、有事の際に活かせるようして行く。</p>	<p>◆いつ起こるか分からない災害等に対応するために社協全体での研修や訓練を行い災害に備えることが必要。 ◆外部団体とも連携し、研修や訓練を行い災害に備えることが必要。</p>	B	<p>◆実際に災害ボランティアセンターの運営に携わることで職員の意識も変わってきた。</p>	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 普段から近隣と交流を持ち、災害時には支援を必要としている人の手助けができるような体制づくりに努めます。
- ▶ 自主防災組織へ全戸参加できるように努めます。
- ▶ 定期的な防災訓練の実施に努めます。
- ▶ 防災のための情報の共有や活用方法などについてのルールづくりをします。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業や避難行動要支援に取り組み、災害時の体制づくりを行っている ◆防災訓練を定期的で開催している ◆コミュニティや自治会において避難所運営ゲームを行い、災害時への準備・体制づくりを行っている ◆自主防災を立ち上げ、防災力を高めている。例として、関谷小学校を中心とした防災士会のグループにおいて、市（消防団）とも連携して、各種防災に向けた活動が行われている

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実

今後の取組 (2) 地域で取り組む防犯活動の充実

① 行政

- ▶ スクールガードの組織の充実を図り、子どもを犯罪から守ります。
- ▶ 自主防犯組織の結成や活動を支援します。
- ▶ 悪徳商法などの消費者トラブルに遭いやすい高齢者などを被害から守るため、関係機関や団体と連携し地域や家庭の見守り力の向上を推進します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	◆各学校で学校安全ボランティアを組織してもらう。	◆保護者、地域住民等と連携し、市内の全小学校で、学校安全ボランティアを組織している。登下校等の際の見守りや安全指導に当たってくれている。	◆各校とも工夫して学校安全ボランティアを組織しているが、人員不足から保護者が登録されている学校もあり、学校や保護者の負担も大きい。	◆高齢者や地域住民等、地域と連携した組織を作り、人材確保ができるとよい。よりよい連携のために、保険加入等の行政の支援を行っていく。	B	◆各学校では、ボランティアによる見守りはできているが、さらに地域への啓発及び地域との連携が必要である。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活環境部	<p>◆自主防犯組織の結成や活動を支援する。</p> <p>◆高齢者本人及び高齢者を見守る立場の人たちへの啓発を行う。</p> <p>◆特殊詐欺撃退機器無償貸与事業を実施する。</p>	<p>◆自主防犯団体について、活動支援補助金の補助実績 H29…2団体、計197,756円 H30…9団体、計661,934円 R1…4団体、計301,896円（見込み）</p> <p>◆消費生活相談員による出前講座等、情報提供実績 【出前講座実施数】 H29…22回、508名 H30…22回、524名 R1…17回、378名</p> <p>◆公民館高齢者学級での啓発回数（ちょい耳） H29…12回、421名 H30…11回、326名 R1…13回、326名</p> <p>◆HP及びみるメールでの情報発信数（消費生活関連） H29…17回（みるメール18回） H30…31回（みるメール同数） R1…42回（みるメール37回）（3/12現在）</p> <p>◆特殊詐欺撃退機器の貸与状況 H29…34名（新規受付：35名） H30…70名（新規受付：44名） R1…80名（新規受付：32名）（見込）</p>	<p>◆自主防犯活動の支援補助金について、補助団体数、補助額ともに前年度を下回ったが、より利用しやすい事業となるよう、団体にアンケート調査を実施した。</p> <p>◆継続して防犯研修を実施できたが、参加数が前年度を下回った。最適な実施時期の検討が課題。</p> <p>◆啓発事業により注意喚起を行うことができたが、講座やセミナーへ来られない人たちへの啓発が課題。</p> <p>◆撃退機器貸与により被害の防止を図れたが、貸与期間終了後の見守り対策が課題。</p>	<p>◆自主防犯活動支援補助金について、現在の姿が自主防犯団体にとって利用しやすいものになっているのか、再度検討し、要綱の改正も視野に入れる必要がある。</p>	A	◆スケジュールどおりに遂行できたため。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆悪徳商法などの消費者トラブルに遭いやすい高齢者などを被害から守るため、関係機関や団体と連携し地域や家庭の見守り力の向上を推進する。</p> <p>◆市内8か所に設置した地域包括支援センターによる総合相談を実施する。</p>	<p>◆地域包括支援センターでの総合相談の中で、高齢者への啓発及び見守りを実施した。</p>	<p>◆地域包括支援センターが高齢者からの相談を受ける中で、消費者トラブルの被害から守ることができた。</p>	<p>◆関係機関と連携を取り進めていく必要がある。</p> <p>◆日頃からの付き合いなどを通じた、地域の連帯に基づくさらなる防犯力の向上が求められる。</p>	B	<p>◆地域包括支援センターや民生委員等地域との連携により、悪徳商法の被害防止体制が構築されつつあるため。</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域におけるスクールガードや防犯パトロールの仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域におけるスクールガードや防犯パトロールの仕組みづくりの支援の方法について検討する	◆直接的な支援はできていないが、高齢者の見守りを進めていく中で子どもへの見守りも合わせて実施する意見が地域から出ている ◆直接的な支援は行ってないが、民協であがった危険箇所を地域のスクールガードへ情報提供した。	◆地域内のスクールガードや防犯パトロールの現状について知る必要がある	◆現状把握に努め、関わり方を検討していく。その上で社協から活動を提案していくことも必要	C	◆直接的な支援はできていないが、子どもへの支援を検討する機会が出来てきている	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 近所同士で日頃から声かけや目配りをし、不審者の出入りに注意します。
- ▶ 地域ごとに防犯パトロールの仕組みづくりを検討します。
- ▶ スクールガードの組織の充実を図り、子どもを犯罪から守ります。
- ▶ 周囲に消費者トラブルの被害が疑われる人がいる場合には、消費生活センターなどの相談機関へつなぎ、被害の未然防止・早期発見・拡大防止を図ります。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業において声かけや見守りを行い、防災・防犯活動につながっている ◆声かけや見守り、普段の会話の中から消費者トラブルの防止・早期発見につながっている ◆スクールガードや防犯パトロールを実施している

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実
 今後の取組 (3) 災害時における避難行動要支援者への支援体制の充実
 ① 行政
 ▶ 自主防災組織や地域見守り組織と連携し、見守り体制を充実します。
 ▶ 避難行動要支援者の個別計画の作成を推進します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆避難行動要支援者の個別計画の作成を推進する。</p> <p>◆避難行動要支援者支援制度を推進し、自主防災組織や地域見守り組織と連携した見守り体制を充実させる。</p> <p>◆地域住民助け合い事業（15公民館）</p> <p>◆地域支え合い推進員の配置（15公民館）</p>	<p>◆避難行動要支援者支援制度について、各自治会に同意者名簿を提供し、個別計画の作成を依頼した。</p> <p>◆地域支え合い推進員を15公立公民館に配置した。</p> <p>H29…10公民館 H30…14公民館</p> <p>◆見守り活動等を79自治会が実施した。</p> <p>H29…55自治会 H30…71自治会</p>	<p>◆避難行動要支援者支援制度について、個別計画の作成率が59.1%となった。</p> <p>◆見守り活動を実施する自治会の増加により、地域で見守り合う体制を拡充することができた。</p>	<p>◆避難行動要支援者支援制度について、未協定自治会に対して、粘り強く制度の説明をしていく。</p> <p>◆普段から、見守り等の助け合いによる地域とすることで、緊急時や災害時の互助による支援体制を構築をする。</p>	B	<p>◆避難行動要支援者支援制度について、全体的に事業が進捗した。</p> <p>◆地域で見守りあう体制が拡充されたため。</p>	継続
総務部	<p>◆自主防災組織の結成促進、活動支援</p>	<p>◆避難行動要支援者に対する支援において大きな役割を担う自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備を支援するために補助金を交付した。</p> <p>◆自主防災組織未結成の自治会を対象に、組織の結成や自主防災活動に関する説明会を実施した。</p>	<p>◆自主防災組織が結成されていない自治会がまだあり、結成されている組織においても、活動状況に地域差がある。</p>	<p>◆組織の結成や活動に対する費用補助を継続する。</p> <p>◆自主防災活動が地域差なく、活発に行われるよう支援する。</p>	B	<p>◆自主防災組織の活動に対する支援を実施することができた。</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 各地域の状況に応じた自主防災組織や見守りの体制づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域における災害時の情報収集、要支援者の把握、避難誘導などについて支援します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域住民助け合い事業を通して支援していく	◆助け合い事業において災害時も含め、地域にあった支え合いの方法と一緒に検討している ◆コミュニティの研修や自治会研修において避難所運営ゲーム(HUG)を実施した	◆避難所運営ゲームを実施したことで、日頃からのつながりや情報共有が重要であるという意識が増した	◆災害時や助け合いの取り組みは一体的に行っていく必要があるため、市や社協などの関係機関も一体的な支援が必要	B	◆防災・防犯は日頃からのつながりが必要であることが地域内でも理解が進んでいる	継続
総務・経理係	◆市総合防災訓練に参加する。	◆ ◆	◆台風15号の影響により訓練が中止となった	◆実際の災害時に対応できる体制の確立が課題	D	◆事業の未実施	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 各地域の状況に応じた自主防災組織や見守り体制の充実に努めます。
- ▶ 災害時の情報収集、要支援者の把握、避難誘導などについて検討します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の状況や特徴を踏まえて地域ごとに自主防災組織・見守り体制の充実に努めている ◆助け合い事業・避難行動要支援者からの情報を集約し、支援体制の充実に努めている ◆台風19号について、各自治会に事前対策や被害状況について聞き取りを行った。聞き取り内容をまとめた資料の配布を行った

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり
 今後の取組 (1) 地域での居場所づくり

① 行政

- ▶ 子どもの遊び場となる公園などの適切な管理、整備を図ります。
- ▶ 放課後児童クラブ、子育てサロン、生きがいサロンの充実・活性化を図ります。
- ▶ 子どもや高齢者などの地域での居場所づくりを行っている任意団体への支援策を検討します。
- ▶ 福祉活動の場としての空き家の活用を検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
建設部	◆29年度で終了予定だった社会資本総合整備交付金事業における都市公園施設を長寿命化させるための更新工事計画を31年度まで延伸した。	◆黒磯公園、那珂川河畔公園、烏ヶ森公園における園路、照明灯、水飲み場等施設の更新工事を実施した。 H29…3公園 H30…4公園	◆計画どおり更新工事を実施した。	◆老朽化した施設を更新し、安心安全な都市公園を維持する。	A	◆計画どおり更新工事を実施できたため。	継続
子ども未来部	◆子育てサロンの充実を図る。 ◆子どもの居場所づくりとして、要支援児童放課後応援事業をNPO法人に委託、支援する。 ◆放課後児童クラブの充実・活性化を図る。	◆商業施設内に子育てコミュニティ広場を開設し、子育て情報の発信及び子育て世帯が気軽に交流できる場を提供した。 ◆子育てサロン、つどいの広場の実施 ◆要支援児童放課後応援事業(2か所)の実施 H29…2箇所 H30…2箇所 ◆公設民営児童クラブ(24クラブ) ◆民設民営児童クラブ(20クラブ) ◆合計44クラブ(3月末現在)	◆子育てコミュニティ広場の開設により、さらに多様なニーズに対応した子育て環境の充実が図られた。 ◆H30に設置された放課後児童クラブ地域連絡協議会を開催し、各地域で児童クラブの課題について協議を行った。	◆R2.3に策定した第2期子ども・子育て未来プラン、第2期保育園整備計画及び第2期放課後児童クラブ整備計画に沿って、引き続き子育て環境の充実に努める。	B	◆子育てコミュニティ広場の開設により、さらなる子育て環境の充実が図られた。 ◆児童クラブの増設及び着実な運営により、保護者の仕事と子育ての両立支援が図られている。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きがいサロン推進事業の実施 ・街中サロン事業の実施 ・元気アップデイサービス事業の実施 ・シニアセンターを拠点とした居場所づくり ・いきいき百歳体操 <p>◆空き家活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動の場としての空き家の活用を検討する。 	<p>◆居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きがいサロン運営支援 <p>H29…60箇所 H30…60箇所 R 1…61箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街中サロン運営支援 <p>H29…1箇所 H30…1箇所 R 1…1箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気アップデイサービス <p>H29…27コース H30…26コース R 1…25コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき百歳体操 <p>H29…21箇所 H30…36箇所 R 1…43箇所</p> <p>◆空き家活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉事業所として、空き店舗や小学校跡地等が活用されている。 	<p>◆居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所づくりをとおり、高齢者の閉じこもり防止、孤立防止及び介護予防に一定の効果があった。しかし、街中サロンについては、事業内容の恒常化と共に、利用者が減少傾向にある。 ・生きがいサロン等の実施団体や参加者の増加を図る。 <p>◆空き家活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家等の活用はされているが、情報入手は民間福祉事業者が独自に行っている。 ・子どもから高齢者までがコミュニケーションが図られ、生き生きと活動できるような場を作っていくことが求められる。 ・福祉活動の場としての空き家の活用を図る。 	<p>◆居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街中サロンについては、今後の在り方を検討する必要がある。 ・生きがいサロン等の内容をPRし、実施団体や参加者の増加を目指す。 <p>◆空き家活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家等の情報集約、情報提供について一元化する。 ・若い世代を含め、より多くの人に参加しやすく、また、より地域に密着し、地域の実情に応じた交流機会の創出が必要。 ・福祉活動の場としての空き家の活用が有効か検討を進める。 	B	<p>◆居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きがいサロン、いきいき百歳体操の箇所数が増加した。その他の事業については、利用状況が未確定であるが、高齢者の閉じこもり防止、孤立防止及び介護予防に一定の効果があった。 <p>◆空き家活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家等の情報提供体制は整備されていないものの、福祉活動の場として実際に活用されているため。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子どもや高齢者の居場所づくりを支援します。
- ▶ 地域の中で空き家を福祉活動の場として活用できるよう支援の方法について検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもや高齢者の居場所づくりを支援する ◆地域の中で空き家を福祉活動の場として活用できるよう支援の方法について検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの居場所づくり検討会から自治公民館を活用した子ども食堂が出来た ◆空き家や店舗を活用してほしいという想いを活用を考えている団体へつないでいる ◆生きがいサロンの支援を中心に高齢者の居場所作りを支援した。 	◆子どもや高齢者が集まれる場の検討や活動が始まった	◆実際に子どもの居場所づくりや空き家活用を行うときには、多くの機関、地域の力が必要になり、想いだけでは成立しないことへの協力や理解が必要	B	◆地域からのニーズに合わせて、居場所づくりの支援を積極的に進めている	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 子育てについて気軽に話し合える場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 放課後や休日など一人にいる子どもなどが集まることができる場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 子育てサロンなどの開設に向けて検討します。
- ▶ 高齢者が集まることができる場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 空き家を福祉活動の場として活用できるよう検討します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会独自で子育てサロンを実施している ◆生きがいサロンやいきいき百歳体操などを実施している。 ◆趣味やサークル活動を自治公民館などで行っている ◆公民館や福祉施設の空きスペースにてケアラズカフェや居場所づくりを実施している ◆子ども食堂を実施し、多世代が集える居場所を実施している ◆新たな居場所の創出に向けて、資源開発を行ったり、空き家の活用について検討したりした

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり
 今後の取組 (2) 地域での活躍の場づくり
 ① 行政
 ▶ ボランティア活動などを通じて、地域における子どもの活動の場を増やします。
 ▶ スクールガードや見守り活動など、地域における高齢者の活躍の場を増やします。
 ▶ 障害者の働ける場の確保に努めます。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆ボランティア活動などを通じて、地域における子どもの活動の場を増やす。	◆ボランティア活動の場として、市内公立保育園でボランティアの受け入れを実施。	◆・公立保育園では中高生等をボランティア活動の場として受け入れる態勢はできている。	◆地域で子どもが活動する機会を増やすための検討が必要。	B	◆公立保育園ではボランティアを受け入れる態勢を整え、積極的に受け入れている。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ◆（障害者の働ける場） ・障害者の働ける場を確保する。 ◆（子どもの活動の場） ・ボランティア活動などを通じて、地域における子どもの活動の場を増やすよう提案する。 ◆（高齢者の活動の場） ・老人クラブの活動支援 ・シルバー人材センターの活動支援 ・生涯学習、スポーツ、レクリエーション活動の場の提供 ・介護支援ボランティアポイント事業の推進 ・地域づくり型介護予防サポーター養成事業 ・シルバー大学校同窓会会員との連携 ・生涯現役応援体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ◆（障害者の働ける場） ・障害者枠での就労を希望する方の手帳取得を支援した。 ・地域自立支援協議会事業所部会（就労グループ）で就労系サービスの量と質の向上を図った。 ◆（高齢者の活動の場） ・老人クラブ運営支援 H29・・・62箇所 H30・・・55箇所 R1・・・53箇所 ・老人クラブ連合会スポーツ大会運営支援 ・シルバー人材センター活動支援 ・シルバー作品文化祭開催 （シルバー大学校同窓会会員と連携して開催） ・介護支援ボランティア活動登録者 H29・・・113人 （H30.3現在） H30・・・145人 （H31.3現在） R1・・・148人 （R 2.3現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆（障害者の働ける場） ・障害者の法定雇用率の改定や就労系サービスの充実により、一般就労・福祉的就労の場は増えている。 ◆（高齢者の活動の場） ・高齢者の豊富な経験や知識、技能を生かした地域での活躍の場づくりに一定の効果があった。 ・老人クラブについては、箇所数及び会員数とも近年減少が続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆（障害者の働ける場） ・室内での単純作業や複雑な作業工程、屋外での農作業や清掃作業等、障害者の特性や能力に応じ、就労先を幅広く確保することが課題である。 ◆（高齢者の活動の場） ・老人クラブの魅力のPR等により、箇所数及び会員数の減少を防止する。 ・広報等PRにより、介護支援ボランティア活動登録者の増加を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆（障害者の働ける場） ・障害者の就労機会は増加しているため。 ◆（高齢者の活動の場） ・各種事業の実施により地域での活躍の場づくりに一定の効果があった。 	継続
教育部	<ul style="list-style-type: none"> ◆各学校で学校安全ボランティアを組織してもらっており、祖父母の協力も得る。学校から自治会にも周知を行い、協力者を募る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各学校で全保護者及び自治会に学校安全ボランティアの希望を募り組織を編成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆人材確保が課題であるが、本市で推進している地域と学校の協働活動として、引き続き学校と地域との連携を図っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆組織編成に当たって自治会や敬老会等の地域住民と連携協力しながら、地域で子どもを育てていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティアによる見守りはできているが、学校と地域がより一層連携するよう取り組む必要がある。 	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	◆職員採用における障害者枠の設置	◆採用者1名 (R2年4月1日付け) H29…1名 H30…0名(応募無し)	◆法定雇用率の確保 (H29まで2.3%→ H30から2.5%に引上げ)	◆毎年計画的に採用する必要がある。	A	◆計画どおり採用	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 高齢者が地域の中においてボランティア活動などで活躍できる場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で高齢者の知恵や力を出すことのできる機会づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 子どもや若者が地域の中で活躍できる場づくりの支援の方法について検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域住民助け合い事業を推進していくなかで住民の活躍の場を意識していく	◆ボランティア保険を提案し、安心した活動ができるよう支援している ◆助け合いにおいて、地域の高齢者同士の見守り等がなされている ◆子ども食堂や学習支援の場への支援を行った	◆子ども食堂などを検討、実施することが結果的に多世代交流や社会参加となった	◆地域の中でできることを住民とともに考え、実践していく仕組みの構築	B	◆住民の活躍の場づくりを意識した支援が行えている	継続
ボランティアセンター	◆行政や関係機関、地域などとのネットワーク強化 ◆子どもや若者が地域活動に参加できるように支援 ◆ボランティア活動の情報提供 ◆高齢者が地域活動、ボランティア活動に参加できるように支援	◆高校生ボランティアグループとんぼの会が行う研修や活動に協力した。とんぼの会と警察が協働でいじめ防止の劇を行った。 ◆ふれあい広場や巻狩りまつりなどで中高生が活動できる機会をつくった。 ◆若者や高齢者など多世代にボランティアについての講話等を行いボランティアの理解や普及活動を行った。	◆多くの世代にボランティアの活動の場の提供やボランティアの理解や推進等が行えた。	◆今後もボランティアの高齢化や若者の地域活動の推進や課題解決に努める。	B	◆ボランティアセンター本所・黒磯ともに多くの市民やボランティアの窓口となってきている。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 高齢者が地域の中で活躍できる場づくりについて検討します。
- ▶ 高齢者の知恵や力を出すことのできる機会づくりについて検討します。
- ▶ 子どもや若者が地域の中で活躍できる場づくりについて検討します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆生きがいサロンや公民館活動において高齢者が主体となって活動している ◆生きがいサロンや公民館活動において各々が出来ることを積極的に行える機会をつくっている ◆老人クラブや高齢者同士の互助グループの活動にを運営・参加している ◆学校と連携し、地域のイベント等に子どもや学生が参加している

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実

今後の取組 (1) 子どもの見守り活動の充実

① 行政

▶ スクールガードなどの見守り活動の充実を図ります。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<p>◆スクールガード（学校安全ボランティア）であることを周知するために、ベストを着用して活動に当たれるようにする。</p> <p>◆スクールガード（学校安全ボランティア）用のベストの必要枚数を把握し、充実を図る。</p>	◆各学校からの要望に応じて、ベストを配付した。	◆各学校の要望に応じて、スクールガード用のベストを補填することができた。スクールガードの活動については、さらに充実できるよう検討していきたい。	◆ベストの認知も上がり、効果が出てきたので、活動の充実を図っていきたい。	B	◆ベストの補填はできたが、活動がさらに充実できるように検討したい。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子どもに対する見守り活動の体制づくりの支援の方法について検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域の中で子どもに対する見守り活動の体制づくりの支援の方法について検討する	◆各自治会等へ情報収集をし、子どもの見守りに対する現状と課題の把握を行った。	◆子どもへの見守り活動の状況とニーズを把握する ◆スクールガードの活動との協働	◆地域の中の見守りを高齢者だけでなく、子どもにも広げていく	C	◆ニーズは確認できているが、直接的な支援はできていない	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中でスクールガードなどを行います。
- ▶ 子どもが地域で安心して遊ぶことができるよう見守りをします。
- ▶ 積極的に子どもたちとあいさつを交わします。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会内の見守り隊（スクールガード含む）が登下校時の通路を巡回したり、危険箇所に立って地域内の子どもたちの見守りをしている ◆コミュニティや自治会のお祭り、世代間交流事業などで子どもと地域の方が交流を図り、日頃からのつながりづくりに繋がっている

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実
 今後の取組 (2) 支援が必要な人への住民の見守り活動の充実
 ① 行政
 ▶ 総全地域での住民主体の見守り活動の実施を目指します。
 ▶ みるメールなどのICTツールを活用した見守りシステムの構築を検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆避難行動要支援者支援制度を推進し、全地域での住民主体の見守り活動の実施を目指す。 ◆地域住民助け合い事業（15公民館） ◆地域支え合い推進員の配置（15公民館）	◆避難行動要支援者支援制度の推進を図り、個人情報提供に係る協定を締結の上、順次自治会に同意者名簿を提供し、個別計画の作成を依頼した。 ◆地域支え合い推進員を15公立公民館に配置した。 H29…10公民館 H30…14公民館 ◆見守り活動等を79自治会が実施した。 H29…55自治会 H30…71自治会 ◆認知症高齢者等SOSネットワークの構築	◆避難行動要支援者支援制度について、個別計画の作成率が59.1%となった。 ◆徘徊により行方不明となった高齢者を検索する際、みるメールによる検索協力を依頼できるシステムを構築した。	◆避難行動要支援者支援制度について、未協定自治会に対して、粘り強く制度の説明をしていく。 ◆みるメール登録者を増やし、ICTによる地域で見守る体制を充実させていく。	B	◆避難行動要支援者支援制度について、全体的に事業が進捗した。 ◆ICTによる見守り体制が確立されたため。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆住民主体の見守り活動の実施を目指す。	◆民生委員児童委員の会議等に参加し、情報提供及び提供方法の確認を行うとともに、支援が必要な児童の把握に努めた。 ◆民生委員児童委員向けの研修会を市民参加型で開催し、地域全体で課題を共有する意識付けを図った。 ◆新型コロナウイルス感染症対策で学校等が臨時休校を開始した際に、全民生委員児童委員に対して市の対応について情報提供し、地域での見守りを依頼した。	◆会議、研修会等で繰り返し情報提供の呼び掛けを行い、併せて市広報等を通じて周知、情報発信を行うことで市民全体の関心が高まった。	◆地域での見守りの重要性について繰り返し周知していく必要がある。	B	◆地域の現状の把握に努めた。 ◆地域の児童に対する関心が高まっている。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動の体制づくりを支援します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域住民助け合い事業の推進・強化	◆地域支え合い推進員の配置 H29…10公民館 H30…14公民館 R1 …15公民館 ◆見守り活動等を実施した自治会数 H29…55 H30…73 R1 …79	◆見守り活動からの生活支援まで発展させる必要がある。取組実態を把握できていない地区もある	◆個別ケースから自治会へ必要性を投げかけていく視点を持つ。多様な場面で地域の人と関わり、実態を把握していく	B	◆推進員の配置、自治会等の助け合いの活動は順調に進んでいる。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 自分でできる範囲で地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動を行います。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業を通して、自治会内で話し合いを重ねながら、自分たちでできる範囲で地域の中で心配な人に対する見守り活動をした。 ◆高齢者への友愛訪問や子どもへの見守り、スクールガード等において見守りを行っている

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実
 今後の取組 (3) 支援が必要な人の情報収集・情報活用の充実
- ① 行政
- ▶ 地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりをします。
 - ▶ 見守り活動における個人情報の提供・活用ルールの検討を行います。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆地域での防災のための情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくりを実施する。 ◆地域住民助け合い事業（15公民館） ◆地域支え合い推進員の配置（15公民館）	◆避難行動要支援者支援制度の推進を図り、個人情報提供に係る協定を締結の上、順次自治会に同意者名簿を提供し、個別計画の作成を依頼した。 ◆地域支え合い推進員を15公立公民館に配置した。 H29…10公民館 H30…14公民館 ◆見守り活動等を79自治会が実施した。 H29…55自治会 H30…71自治会	◆避難行動要支援者支援制度について、自治会や民生委員の制度理解が深まった。 ◆地域支え合い推進員が自治会等の見守り活動等に参加することで、地域の情報の把握や共有を図ることができた。	◆避難行動要支援者支援制度について、一般市民への制度理解を深める必要がある。 ◆見守り活動に取り組む自治会を増やし、地域間の交流を活性化することで、情報収集や情報活用を充実させる。	B	◆避難行動要支援者支援制度について、市と自治会・民生委員との連携が取れつつある。 ◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで、情報を把握する機会が増えたため。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりをします。 ◆見守り活動における個人情報の提供・活用ルールの検討を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員児童委員の会議等に参加し、情報提供及び提供先の確認を行うとともに、地域の情報収集及び情報共有に努めた。 ◆新型コロナウイルス感染症対策で学校等が臨時休校を開始した際に、全民生委員児童委員に対して市の対応について情報提供し、地域での見守りを依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆会議、研修会等で繰り返し情報提供の呼び掛けを行い、併せて市広報等を通じて周知、情報発信を行うことで市民全体の関心が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆適時適切な情報が共有できるよう、情報発信及び情報収集の方法を工夫する。 ◆個人情報の取扱い方法の周知徹底を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆子ども・子育て総合センターの認知度が高まり、当センターが受ける相談件数が増加している。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりの支援の方法について検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援が必要な人の情報収集・情報活用について検討する ◆ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域内での見守り対象者と避難行動要支援者の刷り合わせを行った ◆民生委員や地域包括支援センターとの情報共有を意識した ◆活動した際の記録表等を収集し、状況を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業だけでなく、他機関・他事業との連携を意識し、情報共有や支援を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援が必要な人に対して、地域全体で関わる姿勢が重要 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆他機関・他事業との連携を意識して効率的な情報共有ができています 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中で情報を収集し、情報共有の仕方や活用方法などのルールづくりについて検討します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆見守りマップの作成や班長等からの情報を基に見守りや支援が必要な方を把握し、地域内で情報共有をしている ◆見守りマップ等で把握した情報を基に助け合い活動を検討し実施している ◆避難行動要支援支援制度の情報も関係者で共有しながら、より精度の高い支え合い体制構築を進めている ◆個人情報保護の観点から見守り実施前に本人への意向確認、同意を得ている

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり
 施策の方向性 1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり
 今後の取組 (1) 障害者への理解の促進
 ① 行政
- ▶ 障害者差別解消法の周知に努めます。
 - ▶ 広報などを活用し、障害者施設での事業をPRします。
 - ▶ 企業、地域住民への啓発活動を充実します。
 - ▶ 市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深めます。
 - ▶ 地域における障害者の情報共有の方法を検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆障害者差別解消法の周知に努める。 ◆広報などを活用し、障害者施設での事業をPR ◆企業、地域住民への啓発活動を充実する。 ◆市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深める。 ◆地域における障害者の情報共有の方法を検討。	◆障害者差別解消推進用パンフレットを関係機関に配付 ◆市のポータルサイトで市内の障害者施設の紹介 ◆出前講座（差別解消講座）を実施 ◆広報やイベントにおけるヘルプマークやヘルプカードの周知啓発及び配布	◆障害に対する住民理解の促進と、情報発信を継続しているが、普及には時間を要する。	◆障害者差別の根絶には、教育、医療、福祉、就労等の関係機関だけでなく、住民や事業者の意識を変えていく地道な活動を継続していく必要がある。	B	◆少しずつではあるが、障害者に対する差別の解消に向けた取り組みを行った。 ◆企業や地域住民への啓発活動を強化していく必要がある。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深めます。
- ▶ 社協だよりやホームページなどに障害に関する情報を掲載し、地域住民への啓発活動を充実させます。
- ▶ 地域の中で障害者との交流会や居場所づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で障害者の情報共有を行う場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で障害者への声かけなどの見守り活動の支援の方法について検討します。
- ▶ 地域にある障害者施設と地域住民との交流を推進します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の中で障害者の情報共有を行う場づくりを支援していく。 ◆地域にある障害者施設と地域住民との交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆障がい啓発隊を地域ケア会議等各地で開催した。 ◆自治会等の集いの場に障害者施設利用者が出向き、交流を図った。 ◆障害者施設利用者を自治会の講演会の講師にお招きし、障がいへの理解推進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆障害者と地域がより密接な関係づくりが構築できるよう、顔の見える機会を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域共生社会の実現に向けて相互理解の推進をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆理解の推進に向けて地域とのつながりを増やすことができた。 	継続
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> ◆偶数月（年6回）に社協だよりを発行する。 ◆定期的にHPの更新を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりにおいて、地域福祉、障害福祉、生活困窮等まんべんなく記事や情報を掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりにおいて、分野にとらわれずまんべんなく情報を掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりにおいて、分野にとらわれず情報を掲載したが、障害福祉に関する情報が少ない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆障害福祉に関する情報が少ないが、年6回中、3コーナーを設けることはできた。 	継続
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民や施設等に対して、事業の理解を深めるため、事業説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆障害のある利用者の支援を行いながら、地域との関わり、居場所などについて考察した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援の中で、地域との関わりについて考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆どのような方法で、地域とつながりを作っていくのか、アプローチ方法などの検討が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆障害のある利用者の地域での関わりや居場所などについて検討できた。 	継続
福祉サービス支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の中で障害者との交流会や居場所づくりの支援の方法について検討する。あわせて、障害者の情報共有を行う場づくりの支援の方法について検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆障害福祉サービス事業所連絡会への参加や相談支援部会等の出席により障害者の情報共有を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆専門職同士の情報共有はできていたが、市民や地域を巻き込んでの支援方法の検討の不足はあったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆市民や地域の意識啓発、地域づくりを目的とした方法を検討していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援方法の不足はあったが、地域資源につなぐ支援を行うことにより検討する方向性を得ることができた。 	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
つくし	<ul style="list-style-type: none"> ◆つくしの所在地である西三島自治会との交流を継続する。 ◆西那須野ライオンズクラブとの交流を継続する。 ◆農園芸や木工のボランティアを随時募り、開かれた施設運営を心掛け地域との交流を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆つくしのもちつき大会などを通し西三島自治会との交流を図ることができた。 ◆園芸品の販売を、地域支援系の協力のもと、各地域のサロン時等に出向くことができ、販売経路の拡大と交流の機会を増やすことができた。地域の方へのつくしのPRも兼ねることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆以前からつながりのある自治会やライオンズクラブとの交流を継続できている。また、お花販売を通しご近所や各地域（自治会）の方と交流をすることができた 	<ul style="list-style-type: none"> ◆お花等の「販売」ではなく、交流事業とすることができればベスト。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆交流の維持が図れた ◆ 	継続
心の里	<ul style="list-style-type: none"> ◆公民館まつり等へ参加し、製品の販売を通して施設や障害者への理解と関心を深める。 ◆小学校行事や地域の交流会に参加し住民との交流を促進する。 ◆施設外就労により共生社会の理解と啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の交流会や、他の障害者団体のスポーツ教室に参加し、交流を行った。 ◆他事業所へ月1回交流会を兼ね販売会を実施。 ◆施設で取り組んでいる牛乳パックリサイクル事業に近隣住民や小学校の理解をいただき、交流もできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設の活動や取り組みに関心を持ってもらうことができた。 ◆定期的な他事業所との交流ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆広範囲な地域交流はもとより、近隣住民、団体との交流を進めていき、利用者見守り体制を作っていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域行事への参加及び施設製品をとおり、交流や施設のPRができた。 	継続
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設と地域住民との交流の場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆支え合い推進員と連携し地域の高齢者サロン事業で施設のPRを行った。 ◆箒根中学校行事への参加や地域のボランティア団体との交流会を実施した。 ◆清掃業務等の施設外作業により利用者の社会参加を促進した。 ◆公民館まつり等への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の団体等へPRする事により、施設へ関心を持ってもらうきっかけが出来た。より具体的な交流の実施が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆散歩等、身近な地域での活動を通して地域住民に施設や利用者の存在を知ってもらう。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域行事への参加及びボランティアや中学校との交流が出来た。 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 障害者と積極的に交流し相互理解を深めます。
- ▶ 障害者の情報共有の方法を検討します。
- ▶ 障害者が参加しやすい交流会や居場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 障害者への声かけなどの見守りをします。
- ▶ 障害者差別解消法についての理解や関心を深めます。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域内の障害者施設のイベント等に参加し、施設の雰囲気を知るとともに交流を深めた。 ◆見守りマップ作成時に障害者の情報を記入し、共有を図った。 ◆研修会で精神障害者の声を直接聞いて、支援の方法を勉強したり、共に地域で暮らしていくための検討をした。 ◆自治会主催のまつりに障害者施設の出店を依頼し、参加者との交流を深めた。 ◆地域の集いの場に障害者施設の商品を出張販売してもらい、施設紹介及び交流する機会を設けた。 ◆障がい当事者・家族会などで会員同士の交流や研修会などを行っている
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりやHPを通じて障害に関する情報を得ている。
つくし	<ul style="list-style-type: none"> ◆成人式（市主催）に参列した利用者があり、受付の対応や記念撮影の対応が残念なものだったと保護者より話があったので、主催市へ、障害者差別解消法を交え担当者へ今後の対応の在り方をつくしより伝えることができた。
心の里	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設で作業で取り組んでいる牛乳パックリサイクル製品で使用する牛乳パックを近隣自治会や、小学校からいただくことにより、交流の機会ができています。 ◆地域の交流会や、他の障害者団体のスポーツ教室に参加。
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者と共に地域自立支援協議会当事者部会へ参加し、利用者が交流会等へ参加しやすいよう支援している。 ◆利用者からの相談やニーズを把握し、関係機関へつないでいる。 ◆利用者と話し合い、それぞれに合った活動や作業が出来るよう支援している。

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり

今後の取組 (2) 高齢者・子育て世代などへの理解の促進

① 行政

- ▶ 子育て世代への理解を深めるため、企業への啓発活動を推進します。
- ▶ 認知症サポーター養成講座を充実し、認知症に対する理解を促進します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆子育て世代への理解を深めるための啓発活動の推進。	◆赤ちゃんの駅登録（全57施設のうち民間19施設）及び移動式赤ちゃんの駅貸出を実施（全8回のうち民間主催事業3回） ◆市広報に子育て等に関する特集記事を掲載した（H31.4.5号 空き家と子育て支援、R1.10.5号 里親制度ほか）。 ◆民生委員児童委員向けの研修会を市民参加型で開催し、地域全体で課題を共有する意識付けを図った。	◆赤ちゃんの駅の新規登録が1件、移動式赤ちゃんの駅の貸出の相談も増えているが、今後も周知方法の工夫が必要。 ◆市広報の記事掲載等により市民の関心が高まった。	◆広報等を通じて積極的に周知、情報発信を行う。 ◆企業等民間事業者に対する啓発活動を検討する。	B	◆子育て支援に対する市民の関心が高まり、市民や民間からの支援の働き掛けも見受けられたため。	継続
保健福祉部	◆認知症サポーター養成講座の開催	◆認知症サポーター養成者数 延べ6,713人(見込)のサポーターを養成した。 H29…5, 104人 H30…5, 875人 ※いずれも延べ人数	◆認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の人やその家族の気持ちを理解しようとするサポーターを増やすことができた。	◆小中学校、企業や商工会などに加え、地域住民助け合い事業による地域づくりの一つとして、自治会を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、一人でも多くのサポーターを増やしていく。	B	◆認知症サポーターの増加により、認知症の人と家族を地域で支える意識の啓発の一助となった。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で高齢者や子育ての問題について検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で高齢者や子育て世代の人が参加できる行事の企画を支援します。
- ▶ 地域の中で世代間で交流する場づくりを支援します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の中で高齢者や子育ての問題について検討する場づくりを支援する。 ◆地域の中で世代間で交流する場づくりを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ケア会議等の中で高齢者や子どもについてをテーマとし、話し合った。 ◆子どもの居場所づくりについて地域の皆さんと検討し、実践した。 ◆地域福祉活動補助金等を活用している地域に出向き、世代間で交流する場の支援をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者や子どもをテーマに地域全体で考えていく機会を多く作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもから高齢者まで世代の垣根を超えたつながりを意識して支援する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの居場所づくりを検討し、実践につながった。 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 高齢者や子育ての問題について話し合える場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 日頃からあいさつを交わしコミュニケーションを図ります。
- ▶ 生きがいサロンや老人クラブなどへの参加を呼びかけます。
- ▶ 世代間で交流する場づくりを検討し、できることから行います。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ケア会議に積極的に参加し、「地域で何ができるか」を検討している。 ◆あいさつを交わしたり、さりげなく外から見守るなど困ったときに助け合える関係を築いている。 ◆生きがいサロンやいきいき百歳体操等の活動を広く周知し、積極的な参加を呼びかけ、顔の見える関係、引きこもり予防、介護予防の機会として築いている。 ◆地域包括支援センターと連携し、自治会行事等で認知症サポーター養成講座を行った ◆老人クラブへの参加を呼びかけた

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり
 施策の方向性 2 地域福祉活動の担い手の育成
 今後の取組 (1) 地域活動・ボランティア活動への支援の充実
 ① 行政
 ▶ 自主防災組織や地域見守り活動への支援を充実します。
 ▶ ボランティアポイント制度の拡充や有償ボランティアの仕組みづくりの検討を進めます。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆自主防災組織や地域見守り活動への支援を充実させる。 ◆ボランティアポイント制度の拡充や有償ボランティアの仕組みづくりの検討を進める。 ◆地域住民助け合い事業において、重層的な生活支援サービスが地域で提供される体制を整備する。 ◆地域住民助け合い事業(15公民館) ◆地域支え合い推進員の配置(15公民館) ◆介護支援ボランティアポイント事業を推進する。 ◆地域づくり型介護予防サポーター養成事業を実施する。	◆避難行動要支援者支援制度の推進を図った。 ◆介護支援ボランティア活動登録者 H29…113人(H30.3現在) H30…145人(H31.3現在) R1…148人(R2.3現在) ◆地域支え合い推進員を15公立公民館に配置した。 H29…10公民館 H30…14公民館 ◆見守り活動等を79自治会が実施した。 H29…55自治会 H30…71自治会 ◆介護予防サポーター養成者数 H29…49人 H30…69人 R1…69人	◆避難行動要支援者支援制度について、自治会の制度理解が深まり、市との協定率が78%となった。 ◆(介護支援ボランティアポイント事業) ・広報で事業のPRをしたことにより、活動登録者が増加した。 ・見守り活動等取組自治会が増加しているが、取り組みをしていない自治会がある。	◆避難行動要支援者支援制度について、要支援者を支援する地域住民への制度理解を深めていく必要がある。 ◆(介護支援ボランティアポイント事業) ・事業のPRの継続、新規者を対象とした相談会の開催等により、更なる活動登録者の増加を目指す。 ・自治会に直接出向き、見守り活動等の取り組みを働きかけ続ける。	B	◆避難行動要支援者支援制度について、ある程度事業の進捗がなされた。 ◆(介護支援ボランティアポイント) 少しずつだが、活動登録者が増え続けているため。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災組織育成支援補助金の交付 ◆自主防災組織の活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備を支援するための補助金を交付した。 ◆自主防災組織が行う避難訓練等の活動への協力を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災組織が結成されていない自治会がまだあり、結成されている組織においても、活動状況に地域差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆組織の結成や活動に対する費用補助を継続する。 ◆自主防災活動が地域差なく、活発に行われるよう支援する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災組織の活動に対する支援を実施することができた。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だより、ボランティアセンター情報紙、ホームページなどを活用し、地域活動やボランティア活動をPRします。
- ▶ 地域活動やボランティア活動の充実を図ります。
- ▶ ボランティア同士での意見交換の場を設けます。
- ▶ 学生や大人を対象とした福祉教育の充実を図ります。
- ▶ ボランティアセンター運営体制の強化を検討します。
- ▶ ボランティアに関する講座などを開催します。
- ▶ ボランティア活動への経済的な支援を継続します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<p>◆社協だよりやボランティアセンター情報誌、ホームページ等を活用し、活動のPRや充実及び発展を図る。</p> <p>◆</p>	<p>◆配食ボランティアの募集について周知したり、ボランティア同士の打合せ会を開催し、情報共有の場を持った。</p> <p>◆地域の活動等に地域支え合い推進員が出向き、壁新聞等を作成し、広く周知した。</p> <p>◆社協だよりやボランティアセンター情報誌を活用して、情報提供を行った。</p>	<p>◆地域の活動に関し、壁新聞や広報誌、ホームページ等を通し、広く情報提供をすることができた。また、地域の助け合い活動が広まってきた。</p>	<p>◆地域に存在する助け合いの宝物（資源）を発見・発信し、広く周知していく。</p>	B	<p>◆壁新聞等を作成し、助け合い活動の充実・推進が図られた。</p>	継続
総務・経理係	<p>◆偶数月（年6回）に社協だよりを発行する。</p> <p>◆定期的にHPの更新を行う。</p>	<p>◆社協だよりについては、昨年新たに設けた連載コーナー（あなたのまちの福祉協力店・地域支え合い推進員は見た・生活困窮係から）を継続し内容の充実を図った。</p> <p>◆HPについては、ボランティア壁新聞コーナーの専用サイトを新たに設けた。</p>	<p>◆HPにおいて、ボランティアに関する発信源を増やした。</p>	<p>◆HPにおいて、情報発信源を増やしたが、より内容の充実に向けていくことが必要。</p>	B	<p>◆ボランティアに関する情報発信源を増やした。</p>	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	<p>◆ボランティアセンター運営体制強化として社協本所に新たにボランティアセンターを開設し、黒磯地区、西那須野地区（塩原地区含む）で業務を行う。</p> <p>◆地区別ボランティア交流会を開催する。</p>	<p>◆社協HPにボランティア壁新聞をアップし、ボランティア活動のPRを行った。</p> <p>◆VC情報誌をカラーにするなどして多くの人に見てもらえるように工夫した。</p> <p>◆ボランティアの交流や情報交換の場、ボランティアとの連携強化のため交流会を年に8回開催した。延べ193人参加。</p> <p>◆ボランティアセンターの専任職員3名がコーディネートの資格を所有し、研修や会議等に参加しコーディネートのスキルアップを行い運営強化に努めた。</p> <p>◆運営委員会を開催し運営強化を図った。</p> <p>◆学校以外での福祉教育としても3件行った。</p>	<p>◆ボランティア活動の情報を発信することで、ボランティア活動の活性化が図れた。</p> <p>◆交流会を行うことで、ボランティア同士の横のつながりやボラセンとの連携強化につながった。</p>	<p>◆引き続きボランティア情報の発信や様々なボランティア事業を行い、市内のボランティアの活性化を行っていく。</p>	A	<p>◆ボランティア交流会や各種講座などの事業やボランティア活動の情報発信をすることで、ボランティアの活性化につながった。</p>	拡充

③ 市民や関係団体

- ▶ 自分の関心のあるボランティアに関する講座などに参加するよう努めます。
- ▶ 自分ができることや地域住民ができることについて検討します。
- ▶ 地域の行事や地域活動に関心を持ち、参加するよう努めます。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ケア会議や地域課題の検討会に参加し、自分ができることや地域住民ができることについて検討した。 ◆コミュニティで開催した研修会に参加し、教養を深めた。 ◆先進地の事例について学んだり視察し、自分の地域でもできそうなこと、わがまちの魅力について考えた。 ◆認知症当事者の会や配食サービスにボランティアとして従事している。 ◆地元のお祭りや行事等に積極的に参加し、顔の見える関係となり普段からあいさつをしたりお付き合いが深まった。
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりやHPを通じて地域活動やボランティアに関する情報を発信している。

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり
 施策の方向性 2 地域福祉活動の担い手の育成
 今後の取組 (2) 地域活動・ボランティアの人材やリーダーの育成
 ① 行政
- ▶ 若者による地域づくりへの参画を推進します。
 - ▶ リーダーを養成するための市民講座を充実します。
 - ▶ 福祉事業の人材確保のための仕組みづくりを検討します。
 - ▶ ボランティアを体験する場を提供する仕組みを検討します。
 - ▶ ボランティア情報を提供する仕組みを充実します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆介護予防サポーター養成講座を実施する。 ◆若者による地域づくりへの参画を推進する。 ◆福祉事業の人材確保のための仕組みづくりの提案を行う。 ◆ボランティア体験する場を提供する仕組みを検討し、また、ボランティア情報を提供する仕組みを充実させる提案を行う。	◆介護予防サポーター養成者数 H29…49人 H30…69人 R1 …69人 受講終了者を対象としたフォローアップ研修を開催。	◆受講修了者を対象に、リハ職による介護予防に関する講話及び体操指導を行い、サポーターの資質向上を図ることができた。	◆介護予防サポーターを増やすことで、住民主体の通いの場の継続及び新規立ち上げを行い、地域全体で介護予防に取り組む地域を目指す。	B	◆介護予防に参加する地域のボランティアの資質向上に寄与できたため。	継続
企画部	◆若者向け企画を実施	◆市民活動センター主催で「若者」も参加しやすい事業を開催した。	◆毎月 地域円卓カフェ ◆7/21 若者の社会参加促進事業 ◆9/21 市民活動スキルアップ講座 ◆11/15～11/17 なすしおばら市民フェスタ2019 ◆2/15 なすしおばら×協働サミット2020	◆「若者」をターゲットとした事業を企画し、人材やリーダーの育成につなげる。	B	◆若者の参加も意識した事業を行った。	拡充

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<p>◆市民大学地域づくり学部にて、まちづくりに関心のある市民、これから地域で何らかの活動をしたいと考えている市民、または、すでに団体等で活躍している市民を対象とした講座を実施し、講座修了後に地域で自主的に活動できる人材育成を目指す。</p>	<p>◆生涯学習課で「地域学校協働活動推進員養成講座」の第1回目を市民大学として実施。 ◆公民館で「日本語指導ボランティア養成講座」を実施。 ◆図書館で「読み聞かせボランティア養成講座」、「絵本の読みあい遊び講座」を実施。</p>	<p>◆地域学校協働活動推進養成講座では、推進員の養成と地域で活動する意識づくりを行うことができた。 各種ボランティアの養成講座では、新規人材育成とともにボランティアのスキルアップができた。</p>	<p>◆新たな人材発掘から、広報活動の工夫が必要である。</p>	B	<p>◆地域学校協働活動推進員や、各種ボランティアの養成につながったため。</p>	継続
子ども未来部	<p>◆福祉事業の人材確保のための仕組みづくりの検討。</p>	<p>◆子育て支援関連NPO法人が運営する事業に係るサポーター（ボランティア）養成講座の実施において、広報掲載、みるメール配信等により周知を行い、講座の講師として参加した（「ファミリーサポートセンター」、「ホームスタート」）。 ◆子育てコンシェルジュが民間事業者の子育てサロンを定期的に巡回し、利用者や事業者の相談支援を行った。</p>	<p>◆広報、みるメールにより広く周知することで受講者（ボランティア）を確保することができたが、引き続き人材確保のために周知方法を工夫する必要がある。</p>	<p>◆研修内容を活かし、やりがいをもって活動できる機会を増やすこと。 ◆時間的なゆとり経験のある年配の世代や若い世代が参加しやすい仕組みづくりを検討していく。</p>	B	<p>◆事業者が行う人材育成事業に広報周知や講座の講師として関わり、地域のボランティア養成につながったため。</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 若者による地域づくり座談会の開催に向けた支援の方法を検討します。
- ▶ リーダーを養成するための市民講座などを開催します。
- ▶ ボランティアを体験する場の提供を充実させます。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域づくりの研修等を開催し、地域活動における人材発掘や育成をする。 ◆ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民が主催する研修会の支援を行った。 ◆認知症当事者の会で地域住民もボランティアとして活躍できるよう支援した。 ◆ボランティア養成講座を通してボランティアを養成し、ボランティア登録者を増やすことができた。また、ボランティア同士の交流会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域支援を通し、さらなる地域力の向上・発展するように活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域とのつながりを密にしていきながら、担い手の発掘や育成をしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆研修会等を通し、活動を広く周知することができた。 	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	<p>◆中高校生ボランティアサマースクールの再開</p>	<p>◆今年度から小学生や小学生の親子対象のボランティア講座を開催し、親子で福祉やボランティアについての学ぶ機会を作った。</p> <p>◆若年層のボランティアの育成やボランティアを体験することを目的に中高校生ボランティアサマースクールの開催や高校生ボランティアグループとんぼの会の支援を行った。</p> <p>◆学校や地域で福祉体験学習を行い福祉についての学びに協力。</p> <p>◆ボランティア活動の情報を多く提供できるよう努めた。</p>	<p>◆小学生や親子向けの新しい講座を開催し、親子で福祉やボランティアについて学ぶ機会を作ることが出来た。</p> <p>◆ボランティアサマースクールが、新プログラムで2年目を迎え昨年度より内容の濃い講座や育成が行えた。 (中高校生が合同でふりかえりの事業を行った)</p> <p>◆今年度も高校生ボランティアグループとんぼの会に多くのボランティア活動の場を提供できた。</p>	<p>◆若者から高齢者まで多世代の人が活動できる場所を充実させる。</p>	B	<p>◆ボランティアセンターの運営強化により様々な活動の支援を行えた。</p> <p>◆新規講座等も行い、幅広い年代にボランティアと関わる場を作ることが出来た。</p>	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 若者による地域づくり座談会へ参加するよう努めます。
- ▶ リーダーを養成するための市民講座などに参加するよう努めます。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆コミュニティや市の研修に参加し、横のつながりが増えた。 ◆地域課題についての検討会等に参加し、地域の現状を学ぶとともに地域づくりについて情報共有した。 ◆地域でできることや魅力を考えた。

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 3 地域でのつながりづくり

今後の取組 (1) 地域での交流促進

① 行政

- ▶ 地域での交流を促進する制度や支援の在り方を検討します。
- ▶ 学校だよりや各学校のホームページなどを有効活用しながら情報発信し、地域との交流を促進します。
- ▶ 公民館を核として、学校との地域の連携・協働を強化する、「地域学校協働推進事業」を進めます。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆地域での交流を促進する制度や支援の在り方を検討する。 ◆生きがいサロン推進事業の実施 ◆街中サロンの運営支援の今後の在り方の検討 ◆元気アップデイサービス事業の実施 ◆シニアセンターを拠点とした居場所づくり ◆新しい居場所づくりの検討	◆生きがいサロン運営支援 H29…60箇所 H30…60箇所 R1 …61箇所 ◆街中サロン運営支援 H29…1箇所 H30…1箇所 R1 …1箇所 ◆元気アップデイサービス H29…27コース H30…26コース R1 …25コース ◆老人クラブ運営支援 H29…62箇所 H30…55箇所 R1 …53箇所 ◆シニアセンター年間利用者数 H29…20,717人 H30…20,282人 R1 …15,536人 (R2.1末現在)	◆生きがいサロン等の実施団体や参加者の増加を図る。 ◆老人クラブは箇所数等の減少が続いている。 ◆街中サロンひなたぼっこの閉鎖(R元年度末)	◆生きがいサロン等の内容をPRし、実施団体や参加者の増加を目指す。 ◆老人クラブの魅力のPR等により、箇所数及び会員数の減少を防止する。 ◆新しい居場所づくりを含め、地域での交流を促進する制度等の検討を行う。	B	◆生きがいサロンや老人クラブの活動を支援することにより、地域での交流促進に一定の効果があったため。	継続

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆市民活動センターの運営、イベントの実施	◆市民活動センター利用者協議会を設立し、地域の様々な団体の活動や交流を支援する体制を整えた。	◆市民活動団体の登録を促進、交流を支援する体制の充実を図る。	◆団体や人のネットワークづくりを促進する。	A	◆市民活動センター利用者協議会を設立し、地域活動をサポートする体制を整えた。	継続
教育部	◆学校だよりや各学校のホームページなどを有効活用しながら情報発信し、地域との交流を促進する。 ◆モデル地区を3地区設定し、事業内容について協議を行う。 ◆地域学校協働活動推進員養成講座を実施する。	◆学校だよりを回覧板や学校ホームページで地域へ公開し、学校の情報を発信した。 ◆ホームページを用いて、運動会などのイベントや日常の様子について、適宜情報を発信した。 ◆いじめ防止基本方針やグランドデザインなど、計画・方針等をホームページに掲載し、情報を発信した。 ◆今年度実施6地区（黒磯北中学校区・三島中学校区・塩原小中学校区、日新中学校区・東那須野中学校区・西那須野中学校区）で本部事業を実施。 ◆次年度実施2地区（黒磯中学校区・厚崎中学校区）で立ち上げ準備に向けての合同会議を実施。 ◆今年度実施地区の推進員を対象としたフォロー	◆学校から地域への情報発信により、情報の共有が図られ、地域交流の一助となっている。 ◆従来の取組を基盤として、多様な人がかかわった地域と学校が連携した取組が行われている。 ◆推進員が地域と学校をつなぐ役割を果たしている。 ◆地域学校協働本部事業に対する市民の認知度が低い。	◆現状を維持し、必要に応じて適宜情報を発信する。 ◆事業の説明機会を設けることで周知と理解を図っていく。 ◆HPを活用し、市民へ活動状況を周知する。	B	◆学校と地域の情報の共有が行われ、地域交流の一助となっているため。 ◆本部立ち上げがおおむね計画どおりに進んでいる。 ◆推進員が役割を自覚し、主体的に活動している。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で気軽に誰でも参加できる行事の企画を支援します。
- ▶ 世代を超えて集まれる場づくりを支援します。
- ▶ 障害者などと地域住民が気軽に交流できる場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域住民と学校や福祉事業者などとの交流を推進します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆世代を超えて気軽に集まれる場づくりを支援する。	◆自治会の研修会で障害当事者の声を聞く機会を持つことができた。 ◆テーマごとの集いの場や検討会を開催し、交流の推進となった。 ◆地域福祉活動補助金を活用して自治会が実施している事業に訪問し、地域住民と情報交換をすることができた。	◆集いの場や検討会を開催し、住民同士が気軽に交流できる場が増えた。	◆地域やニーズに応じた集いの場を広く支援する。	B	◆集いの場を継続して開催していくことができた。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 気軽に誰でも参加できる行事を企画し、参加を呼びかけます。
- ▶ 世代を超えて集まることができる場づくりを検討し、世代間交流に努めます。
- ▶ 障害者などと地域住民が気軽に交流できる場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 学校や福祉事業者などとの交流を図るよう努めます。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会のイベントに障害者施設を招待し交流した。 ◆地域の方が気軽に集える場を継続して開催した。 ◆当事者主体の居場所づくりを検討し開催した。 ◆地域の行事に子どもたちを集めたり、学校の行事に地域の方が参加したり、相互につながりを持った。 ◆地域にある施設の運営会議等に参加し、お互いに情報共有した。

令和元(2019)年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり
 施策の方向性 3 地域でのつながりづくり
 今後の取組 (2) 自治会加入率の向上と自治会活動・コミュニティ活動の活性化
 ① 行政
 ▶ 自治会加入率向上のためのサポートを充実し、自治会活動の活性化につなげます。
 ▶ コミュニティ活動の活性化を促す施策の充実に努めます。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会未加入者に対して広報活動を実施し、自治会加入促進を行う。 ◆自治会との連携を強化して加入促進対策を行う。 ◆自治会活性化のための支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会加入促進チラシの配布 ◆ホームページの充実 ◆自治会長研修の実施 ◆自治会活動支援講座「情報発信講座」の実施(新型コロナ感染拡大防止のため中止) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会長連絡協議会と連携して、自治会長や自治会への具体的な支援策を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆より効果的な具体的事業を検討・実施し、自治会活動の活性化及び自治会加入率の向上を実現する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会加入率の向上には至っていないが、今後も自治会活動の活性化に向けて地道な取り組みを継続して行う必要がある。 	継続
教育部	<ul style="list-style-type: none"> ◆那須塩原市コミュニティ連絡協議会で、意見交換会、研修会を実施。 ◆那須塩原市コミュニティ連絡協議会加入団体に対し、コミュニティ活動補助金を交付。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆研修 <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換 12/19 ・視察(3月を予定していたが新型コロナウイルス感染防止のため中止) ◆コミュニティ活動補助金交付 <ul style="list-style-type: none"> ・運営費補助金 16団体 H29…15団体 H30…16団体 ・自治総合センターコミュニティ助成事業補助金 2団体 H29…1団体 H30…1団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◆研修(意見交換会)の開催や、補助金の交付により、コミュニティ活動の活性化が図られている。また、各コミュニティとも、概ね共通して活動費の問題、活動の担い手の高齢化や後継者不足の問題、加入率の問題を抱えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆補助金によるバックアップの継続が必要。また、研修等により知見の蓄積を促すことが肝要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆コミュニティ活動の活性化により、地域内でのつながりづくりに貢献しているため。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で福祉課題に関して検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 様々な世代が自治会運営に携わることができる仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	R1(2019)予定	R1(2019)実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆福祉課題に関して検討する場づくりの支援及び検討する。	◆コミュニティごとに情報交換会の場を持てるよう支援した。 ◆地域ケア会議の中で、障害者や困窮者、児童など幅広いテーマを取り上げ住民の地域課題を検討する場を設けた。 ◆住民が感じる地域の課題について検討会を開催した。	◆地域の課題に対し、住民自らが課題解決に向け活動できるよう支援した。	◆地域住民の方に課題を我が事として捉えてもらえるように支援する。	B	◆地域住民を交えての場を設定し、検討することができた。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 自治会未加入者へ積極的に声をかけ、地域のつながりを深めるよう努めます。
- ▶ 様々な世代が自治会運営に携わることができる仕組みづくりを検討します。

所管	R1(2019)実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆見守り対象者に自治会未加入者を含めて見守り活動を行い、地域とのつながりを深めた。 ◆見守り活動をきっかけに自治会加入を促した。 ◆社協の補助金事業を活用し、地域のつながりを深められるよう企画した。 ◆地域のお祭り等に自治会未加入者もお誘いし、顔の見える関係の機会とした。また、運営の段階から多くの方に関わってもらい担い手、後継者の育成に努めた。 ◆自治会やコミュニティの魅力発信に努めた。